

印旛沼流域水循環健全化会議

第 27 回 委員会

2017 年度 計画の進捗状況

目次

1. 計画の進捗状況.....	1
1.1 計画目標の達成状況.....	1
1.1.1 計画目標と達成状況の概要.....	1
1.1.2 各評価指標の達成状況	4
1.2 推進テーマにおける取組指標の進捗状況.....	18
1.2.1 施策達成状況のまとめ	18
1.2.2 各対策の達成状況	20
1.3 第2期行動計画の記載の一部訂正.....	39

1.計画の進捗状況

1.1 計画目標の達成状況

1.1.1 計画目標と達成状況の概要

健全化計画では、恵み豊かな印旛沼・流域の再生に向けて5つの目標を設定している。

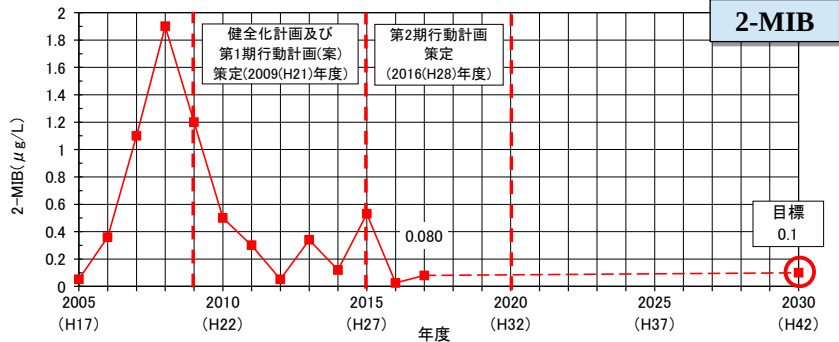
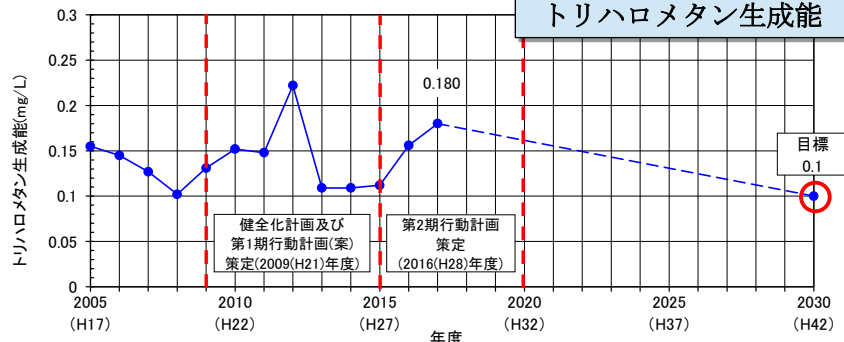
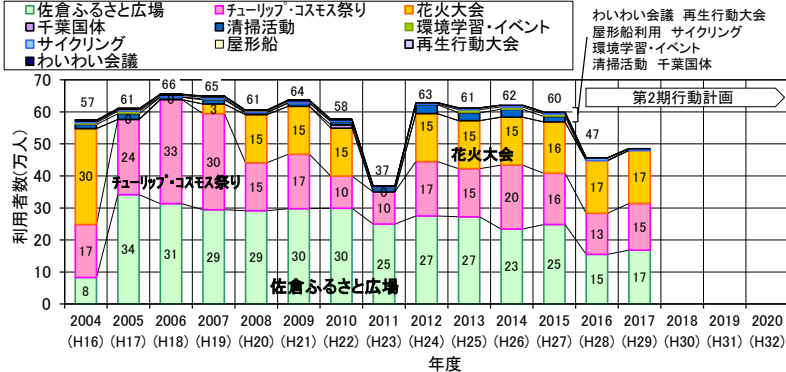
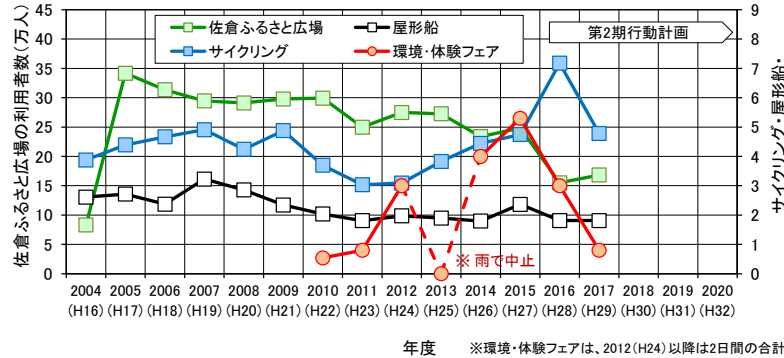
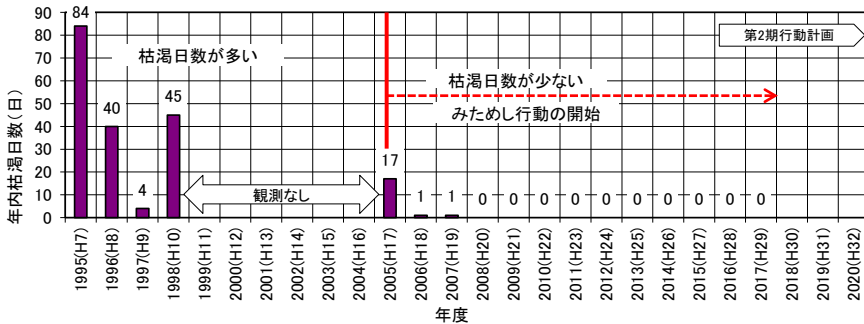
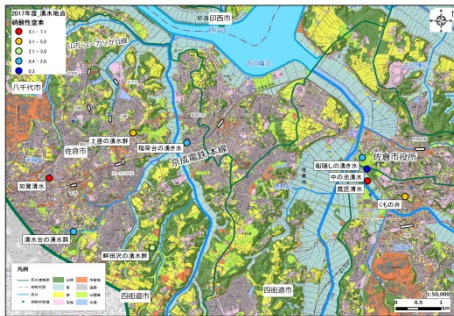
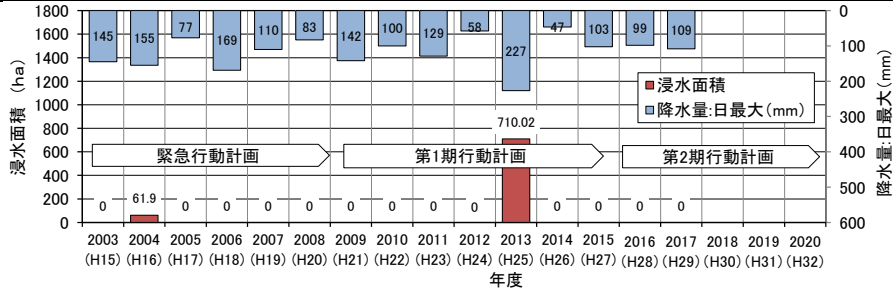
この目標の達成状況を評価するため、目標評価指標と目標値を設定し、これらを指標にして5つの目標の達成状況を評価することとしている。

計画で定めている5つの目標と目標評価指標を以下に整理する。次ページ以降に目標評価指標の進捗状況を示す。

5つの目標		現状 2014(平成26)年度	2020(平成32)年度 における目標	2030(平成42)年度 における目標
目標1 良質な飲み水の源 印旛沼・流域	印旛沼は、多くの千葉県民の水道水源です。命の源である水源が良好に保たれる印旛沼・流域を目指します。	★クロロフィルa ^{※1} : 年平均 150μg/L ★COD ^{※1} : 年平均 11mg/L	★クロロフィルa : 年平均 110μg/L 以下 ^{※5} ★COD : 年平均 10mg/L 以下 ^{※4}	★クロロフィルa : 年平均 40μg/L 以下 ★COD : 年平均 5mg/L 以下
目標2 遊び、泳げる 印旛沼・流域	かつて、印旛沼や河川は、子どもたちの遊び場でした。人々が水にふれあい、遊ぶことのできる、水が清らかな印旛沼・流域を目指します。	★アオコは少ない	★アオコの発生が目立たなくなる	★アオコが発生しない
目標3 ふるさとの生き物はぐくむ 印旛沼・流域	かつて、印旛沼や流域では、多様な生き物がはぐくまれていました。印旛沼の水質悪化や流域の都市化、外来種の侵入等により、沼本来の生き物が減少しています。多様な生き物を呼び戻し、ふるさとの生き物が生息・生育できるような印旛沼・流域を目指します。	★透明度 ^{※1} : 0.5m 程度	★透明度が改善する (透明度 0.4m 程度 ^{※5})	★岸辺に立って沼底が見える (透明度 1.0m 程度)
目標4 水害に強い 印旛沼・流域	かつて、印旛沼・流域は、洪水による大きな被害を受けてきました。今でも大雨の時には、浸水被害等が生じています。大雨でも大きな被害を出さない、水害に強い印旛沼・流域を目指します。	★取水場で臭気の発生がある	★臭気が少なくなる	★臭気がしない
目標5 人が集い、人と共生する 印旛沼・流域	印旛沼・流域は、私たちに様々な恵みを与えてくれます。それを再認識し、地域の宝としてはぐくんでいきます。人々が集まり、人々とともに生きていく、活力と誇りにあふれる印旛沼・流域を目指します。	★2-MIB ^{※2} : 0.001~0.53μg/L ★トリハロメタン生成能 ^{※2} : 0.047~0.222mg/L	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する	★2-MIB : 年最大 0.1μg/L 以下 ★トリハロメタン生成能 : 年最大 0.1mg/L 以下
		★増加する	★印旛沼・流域に訪れる人が増加する	★増加する
		★流域の湧水で枯渇する所がある	★注目地点での湧水が枯渇しない ★低水流量が増加する ^{※6}	★印旛沼底や水源の谷津で豊かな湧水が湧く ★湧水の水質 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素: 10mg/L 以下
		★外来生物による被害が発生している ★在来生物が減少している	★特定外来生物の被害を軽減する ★水生植物群落を保全・再生する	★在来生物種が保全される ★かつて生息・生育していた生物種(特に水生植物)が復活する ★外来種(特に特定外来生物)が駆除される
		★鹿島川や高崎川の下流部などで浸水被害が発生している	★治水安全度が向上する	★概ね30年に一度の大雨でも大きな被害を出さない ^{※3}

※1: 西印旛沼「上水道取水口下」地点の値を記載しています。
 ※2: 2-MIB、トリハロメタン生成能は、「柏井浄水場取水」の値を記載しています。
 ※3: 印旛沼における目標で、「手賀沼・印旛沼・堀本川・利根川・荒川」(2007年7月策定)の目標年次は2037年です。
 ※4: CODの目標値は、印旛沼に係る排水処理計画(第7期)の値を設定しています。
 ※5: クロロフィルaと透明度の目標値は、CODとの相関関係より設定しています。
 ※6: 注目地点だけでは、流域全体の湧水を評価できません。湧水の流れ集まる河川の低水流量の観測を行い、湧水の状況を把握します。

	目標達成 評価指標	2020(H32)年度 目標値	2017(H29)年度までの目標達成状況	2017(H29)年度の 目標達成状況
1	水質	★COD ：年平均 10mg/L 以下 ★クロロフィル a ：年平均 110 μ g/L 以下	COD クロロフィルa 水質（COD、クロロフィル a）の推移	未達成 COD は阿宗橋で目標を達成していますが、上水道取水口下、北印旛沼中央、一本松下では目標値よりも高い値であり、目標を達成していません。 クロロフィル aは上水道取水口下、北印旛沼中央、一本松下で目標を達成していますが、阿宗橋では目標値よりも高い値となっています。
2	アオコ発生	★アオコの発生が目立たなくなる	アオコの調査地点 第2期 目標:アオコの発生が目立たなくなる	未達成 西印旛沼、北印旛沼とも夏期にアオコの発生が確認されました。 確認されたアオコの発生レベルは 2～4 程度で、過年度と同等となっています。
3	清澄性	★透明度が改善する 透明度：0.4m 程度	透明度調査地点 健全化計画及び第1期行動計画(案) 策定(2009(H21)年度) 第2期行動計画 策定(2016(H28)年度) 上水道取水口下水質測定結果データを使用	達成 上水道取水口下の透明度は、年平均 0.47mと目標透明度を達成しました。
4	におい	★臭気が少なくなる	藻臭 下水臭 かび臭 青草臭 腐敗臭 土臭 柏井上水場原水（印旛取水場の臭気） 発生月数	未達成（横ばい） 下水臭、藻臭の発生頻度が高く、続いてかび臭となっています。 それぞれの発生頻度は年によりバラツキがありますが、今年度は下水臭が多くなっています。 腐敗臭は確認されていません。

目標達成 評価指標		2020(H32)年度 目標値	2017(H29)年度までの目標達成状況		2017(H29)年度の 目標達成状況
5	水道に適した水質	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する	 2-MIB(μg/L) 年度 2005 (H17) 2010 (H22) 2015 (H27) 2020 (H32) 2025 (H37) 2030 (H42) 健全化計画及び第1期行動計画(案)策定(2009(H21)年度) 第2期行動計画策定(2016(H28)年度) 目標 0.1 0.080  トリハロメタン生成能(mg/L) 年度 2005 (H17) 2010 (H22) 2015 (H27) 2020 (H32) 2025 (H37) 2030 (H42) 健全化計画及び第1期行動計画(案)策定(2009(H21)年度) 第2期行動計画策定(2016(H28)年度) 目標 0.1 0.180 2-MIB(年最大値)、トリハロメタン生成能(年最大値)の推移 (柏井浄水場原水)		未達成 2-MIB の年最大値は、前年度より増加していますが、健全化計画目標値は達成しています。 トリハロメタン生成能の年最大値は、前年度より増加しています。
6	利用者数	★印旛沼・流域に訪れる人が増加する	 利用者数(万人) 年度 2004 (H16) 2005 (H17) 2006 (H18) 2007 (H19) 2008 (H20) 2009 (H21) 2010 (H22) 2011 (H23) 2012 (H24) 2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (H31) 2020 (H32) 佐倉ふるさと広場 千葉国体 サイクリング わいわい会議 チューリップ・コスモス祭り 清掃活動 屋形船 花火大会 環境学習・イベント 再生行動大会 わいわい会議 再生行動大会 屋形船利用 サイクリング 環境学習・イベント 清掃活動 千葉国体 第2期行動計画  佐倉ふるさと広場の利用者数(万人) 年度 2004 (H16) 2005 (H17) 2006 (H18) 2007 (H19) 2008 (H20) 2009 (H21) 2010 (H22) 2011 (H23) 2012 (H24) 2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (H31) 2020 (H32) 佐倉ふるさと広場 屋形船 サイクリング 環境・体験フェア 第2期行動計画 ※環境・体験フェアは、2012(H24)以降は2日間の合計 利用者数の比較 利用者数等の推移		未達成(減少) 佐倉ふるさと広場やチューリップ・コスモス祭りの利用者数は微増傾向にありますが、花火大会や屋形船の利用者数は横ばいとなっています。また、サイクリング利用者は減少に転じています。なお、環境・体験フェアは、天候不順による1日開催のため減少となっています。
7	湧水	★注目地点での湧水が枯渇しない ★低水流量が増加する	 年内枯渇日数(日) 年度 1995(H7) 1996(H8) 1997(H9) 1998(H10) 1999(H11) 2000(H12) 2001(H13) 2002(H14) 2003(H15) 2004(H16) 2005(H17) 2006(H18) 2007(H19) 2008(H20) 2009(H21) 2010(H22) 2011(H23) 2012(H24) 2013(H25) 2014(H26) 2015(H27) 2016(H28) 2017(H29) 2018(H30) 2019(H31) 2020(H32) 枯渇日数が多い 枯渇日数が少ない みためし行動の開始 観測なし 第2期行動計画  参考 2016(H28)湧水池の硝酸性窒素濃度 (注目地点) 加賀清水での湧水池の枯渇日数		(注目地では)達成、硝酸性窒素は未達成、低水流量は未達成 重点観測地点とした加賀清水湧水では、近年、枯渇日数はありません。佐倉市内の湧水における硝酸性窒素の最大値は、今年度は未調査です。低水流量の評価については、現在検討中です。
8	生き物	★特定外来生物の被害を軽減する ★水生植物群落を保全・再生する	生き物の指標は、調査頻度を5年に1回としており、第2期行動計画期間内の調査は2019(平成31年)年度に実施を予定しています。(計画最終年に評価するためにその1年前に実施予定) 現状では、ナガエツルノゲイトウなど特定外来生物の繁茂が確認されており、生態系WGなどで対策を実施しています。また、近年、オオバナミズキンバイやミズヒマワリなどの繁茂も確認されており、特定外来生物による被害の発生が懸念される状況となっています。		特定外来生物による被害の懸念がある状況となっています。
9	水害	★治水安全度が向上する	 浸水面積 降水量:日最大(mm) 年度 2003 (H15) 2004 (H16) 2005 (H17) 2006 (H18) 2007 (H19) 2008 (H20) 2009 (H21) 2010 (H22) 2011 (H23) 2012 (H24) 2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29) 2018 (H30) 2019 (H31) 2020 (H32) 緊急行動計画 第1期行動計画 第2期行動計画 710.02 61.9 145 155 77 169 110 83 142 100 129 58 227 47 103 99 108 印旛沼流域の浸水面積:住宅の床上・床下浸水		治水安全度向上のため、印旛沼流域の河川では河道整備や印旛沼の計画堤防高さの維持を行い、治水安全度を向上させる取組を推進しています。

1.1.2 各評価指標の達成状況

(1) 水質

■ 指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
COD	年平均 8.5mg/L	年平均 10mg/L 以下	年平均 5mg/L 以下
クロロフィル a	年平均 85μg/L	年平均 110μg/L 以下	年平均 40μg/L 以下

■ 2017(平成 29)年度における目標の達成状況

未達成

COD は阿宗橋で目標を達成していますが、上水道取水口下、北印旛沼中央、一本松下では目標値よりも高い値であり、目標を達成していません。

クロロフィル a は上水道取水口下、北印旛沼中央、一本松下で目標を達成していますが、阿宗橋では目標値よりも高い値となっています。

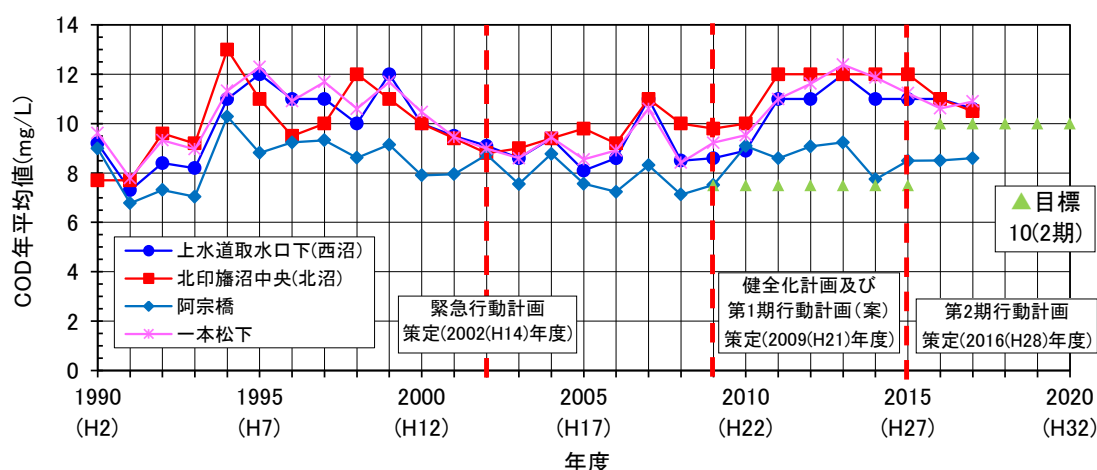


図 1.1 印旛沼の水質 (COD) の推移

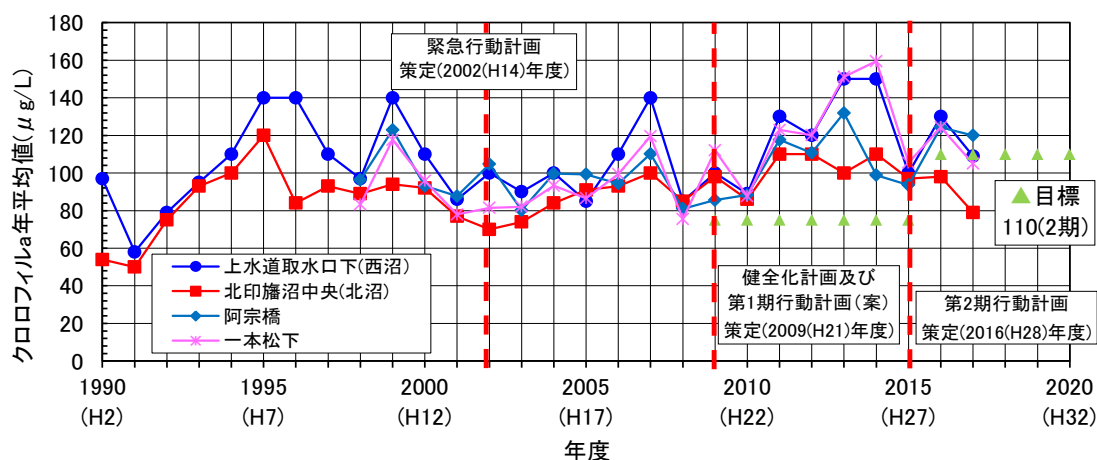


図 1.2 印旛沼の水質 (クロロフィル a) の推移

(参考) 印旛沼流入河川等の水質状況

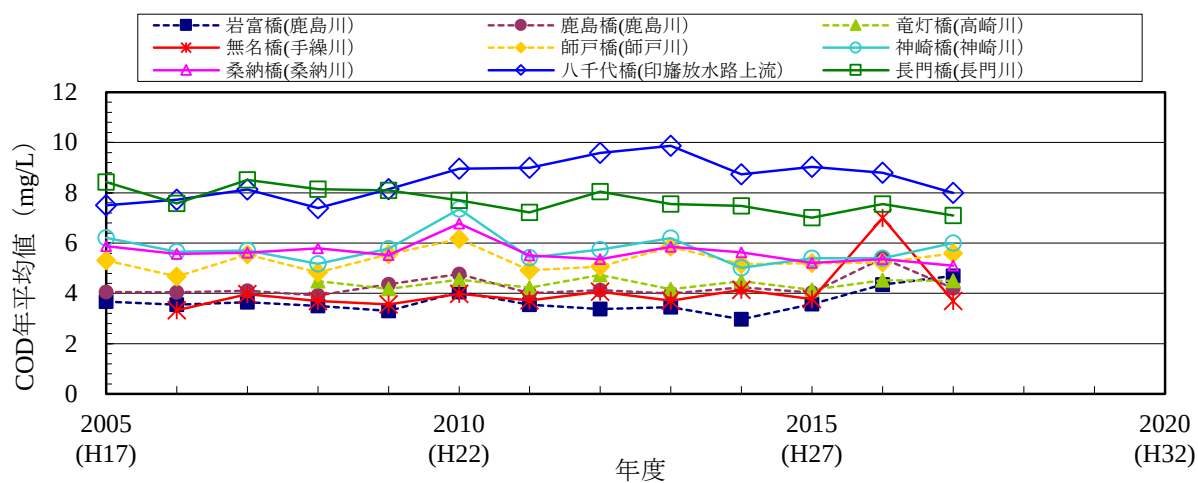


図 1.3 印旛沼流入河川の水質 (COD) の推移

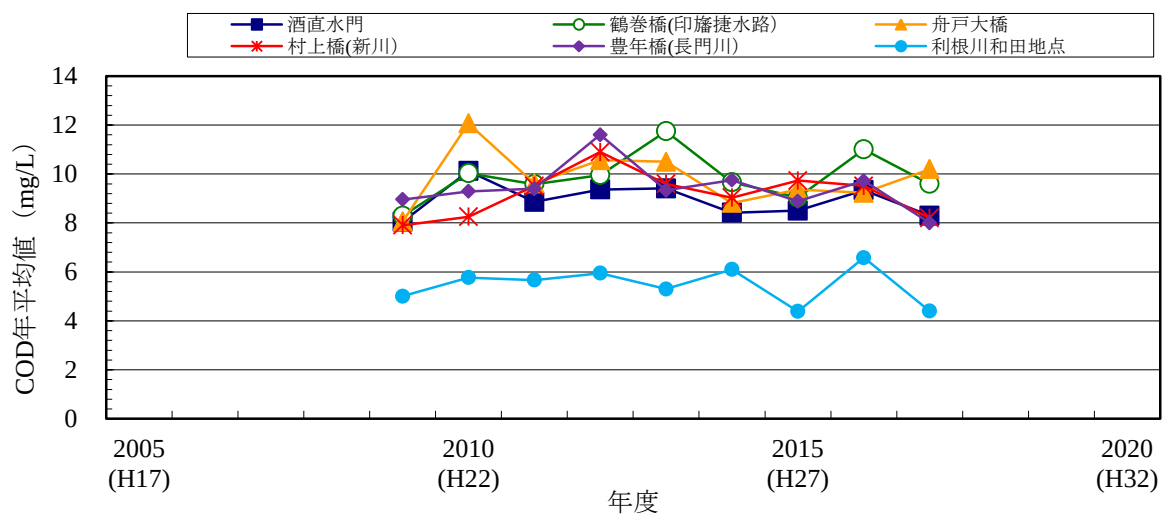


図 1.4 印旛沼及び印旛沼流入・流出河川の水質 (COD) の推移

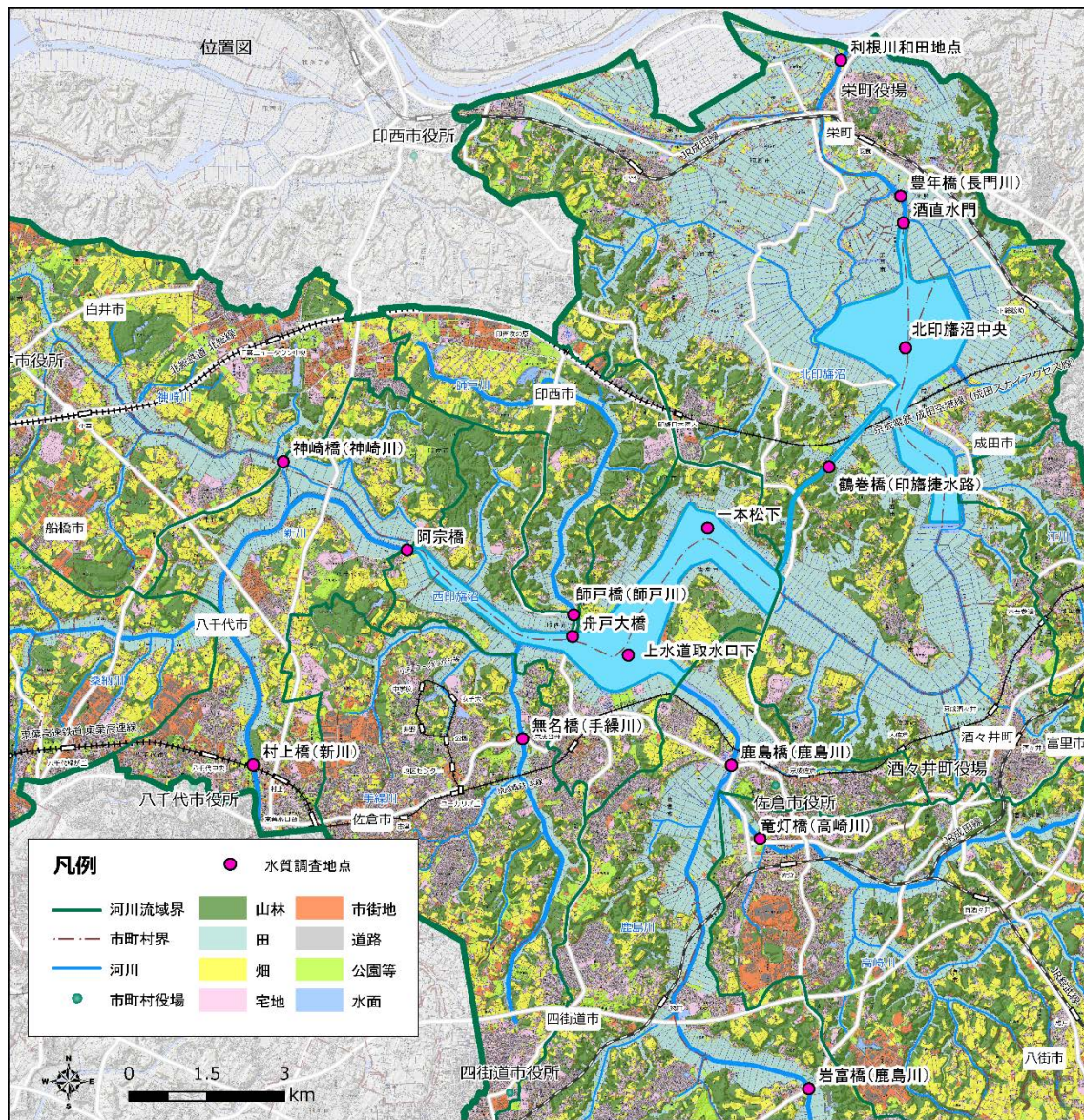


図 1.5 水質調査地点図

(2) アオコ発生

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
アオコ発生	ところどころにアオコが発生している	アオコの発生が目立たなくなる	アオコが発生しない

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

未達成

西印旛沼、北印旛沼とも夏期にアオコの発生が確認されました。

アオコのレベルは2～4程度で、過年度と同等となっています。

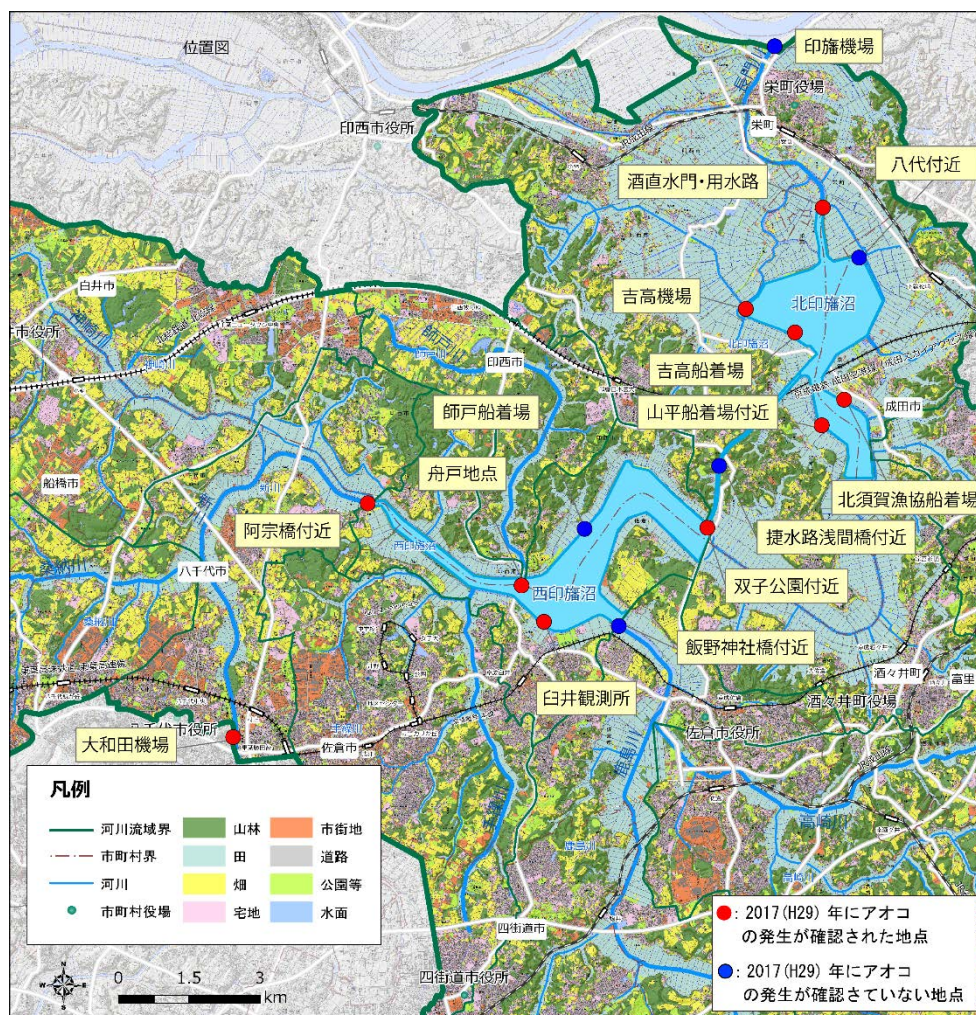


図 1.6 アオコの調査地点と発生状況

※水資源機構資料より作成しています。

※2016(H28)年度より調査様式が一部変更となっています。

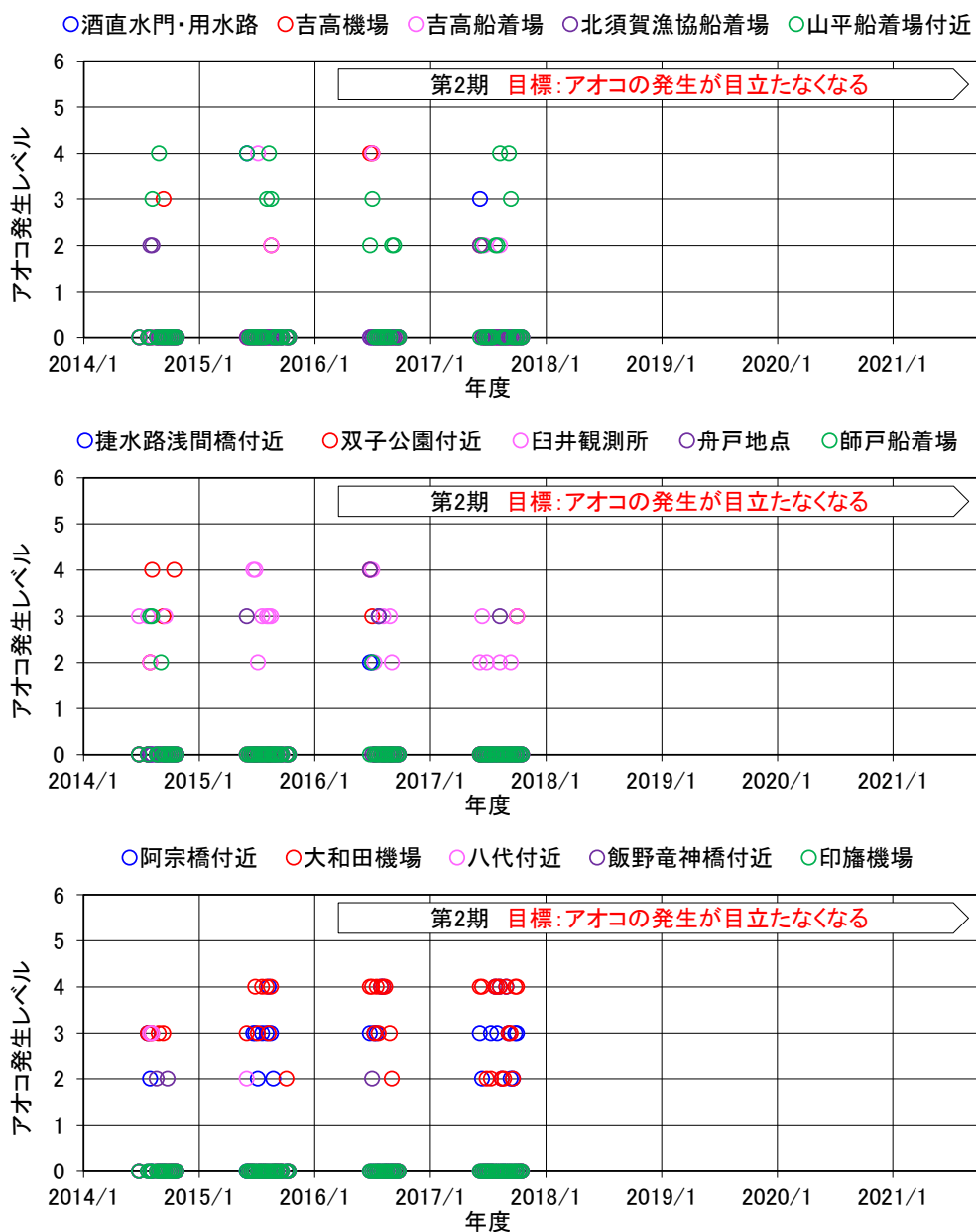


図 1.7 アオコ発生レベルの状況



※水資源機構資料より作成しています。

※2016 (H28) 年度より調査様式が一部変更となっています。

※アオコ発生レベル: アオコが発生した場合、どのくらい発生しているのかを表すために、アオコの発生状況が多くなっていく順に、見た目判断してレベル1〜6に分類しています。

(3) 清澄性

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
透明度	透明度：0.2m 程度	透明度が改善する 透明度：0.4m 程度	岸辺に立って沼底が見える 透明度：1.0m 程度

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

達成

上水道取水口下の透明度は、年平均 0.47m と目標透明度を達成しました。

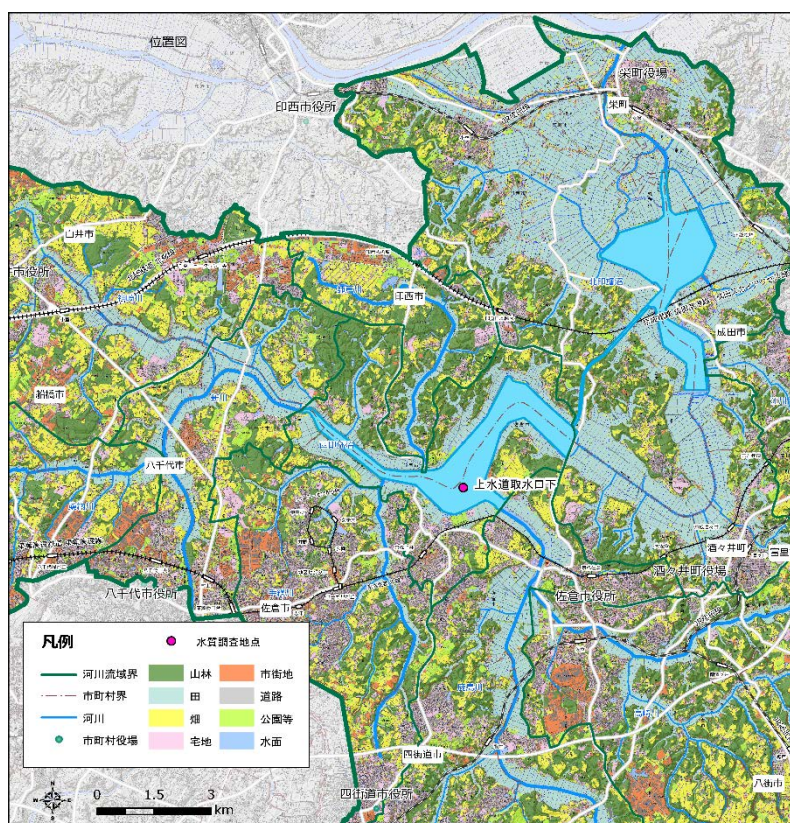


図 1.8 透明度調査地点図

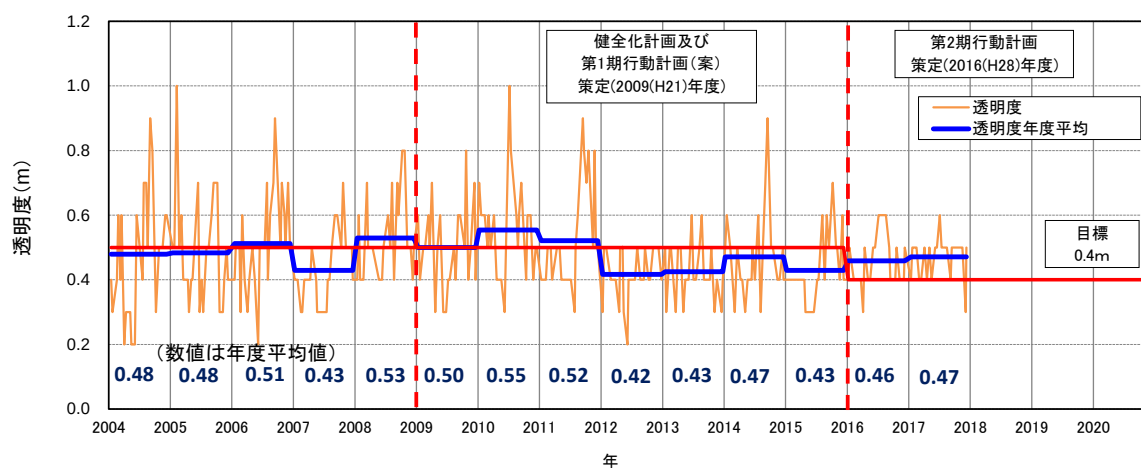


図 1.9 透明度の推移

※上水道取水口下水質測定結果データを使用しています。

(4) におい

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
におい	季節や場所によって臭気の発生がある	臭気が少なくなる	臭気がしない

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

未達成（横ばい）

下水臭、藻臭の発生頻度が高く、続いてかび臭となっています。

それぞれの発生頻度は年によりバラツキがありますが、今年度は下水臭が多くなっています。

腐敗臭は確認されていません。

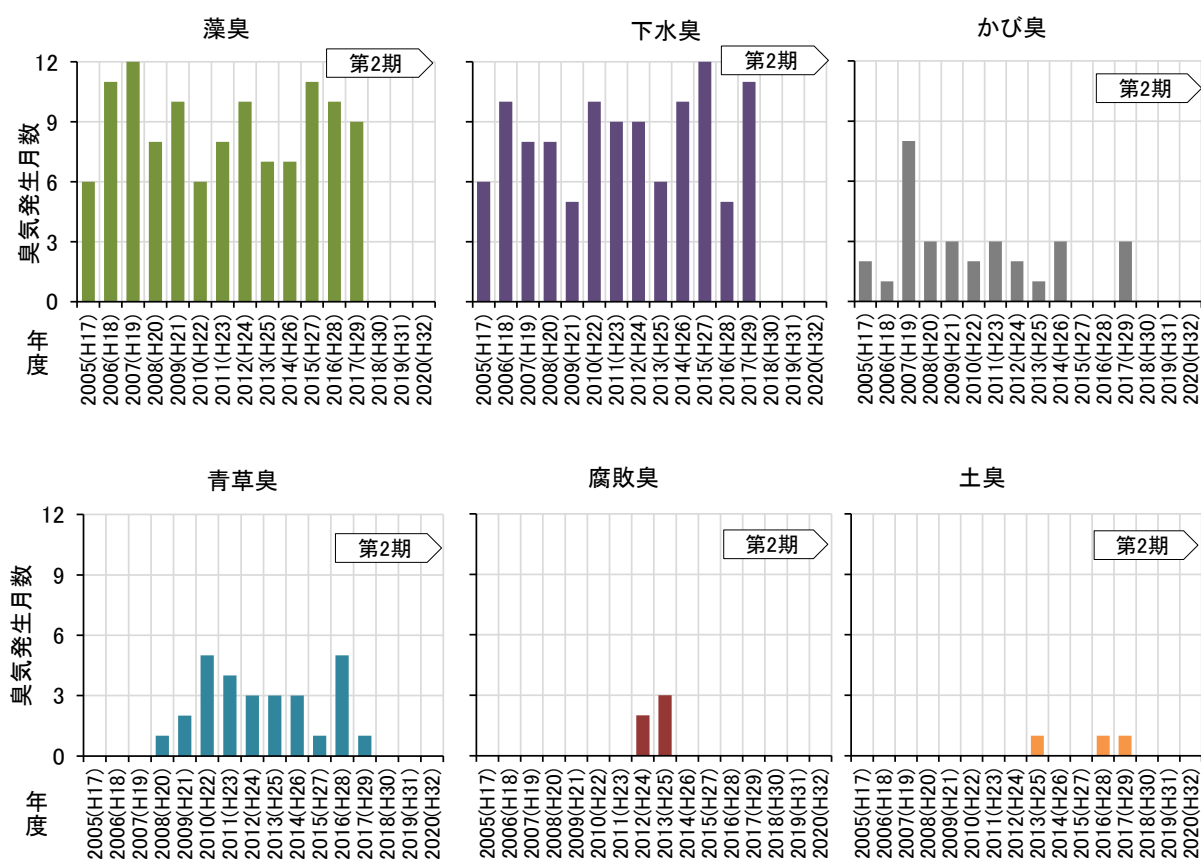


図 1.10 柏井浄水場原水（印旛取水場の臭気） 発生月数

※千葉県ホームページ中の水道局水質検査結果、柏井浄水場のデータより作成しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/jousui/suishitsu/kensa/kashiwai-sen.html>

(5) 水道に適した水質

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
2-MIB	0.0～0.12 $\mu\text{g/L}$	2-MIB が改善する	年最大 0.1 $\mu\text{g/L}$ 以下
トリハロメタン生成能	0.047～0.102 mg/L	トリハロメタン生成能が改善する	年最大 0.1 mg/L 以下

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

未達成

2-MIB の年最大値は、前年度より増加していますが、健全化計画目標値は達成しています。
トリハロメタン生成能の年最大値は、前年度より増加しています。

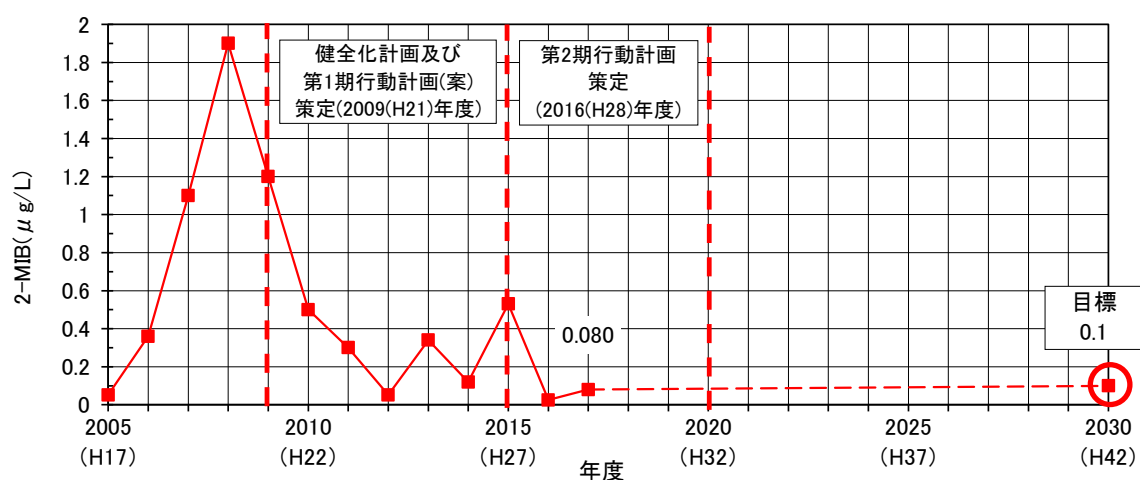


図 1.11 2-MIB(年最大値)の推移 (柏井浄水場原水)

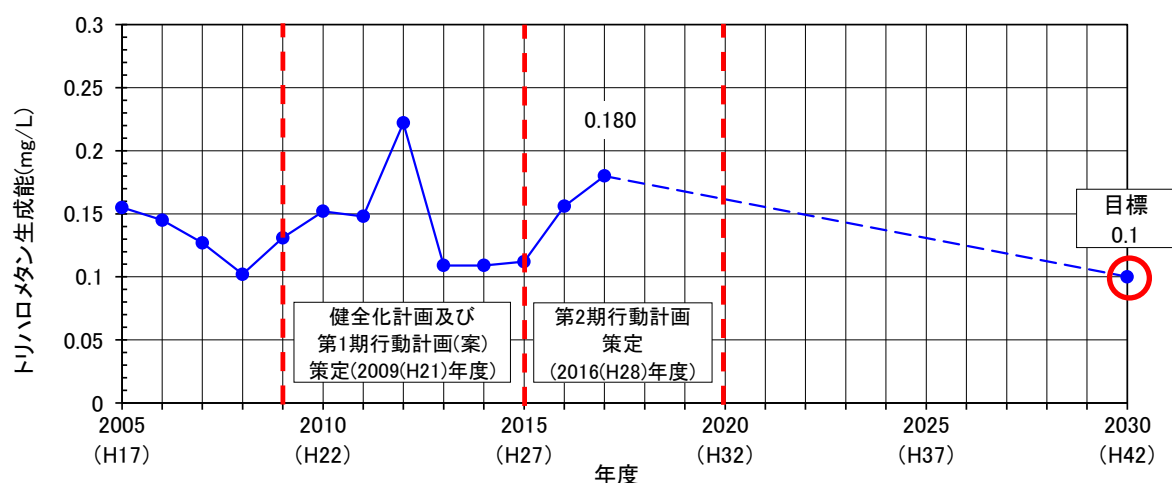


図 1.12 トリハロメタン生成能(年最大値)の推移 (柏井浄水場原水)

※千葉県ホームページ中の水道局水質検査結果、柏井浄水場のデータより作成しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/suidou/jousui/suishitsu/kensa/kashiwai-sen.html>

(6) 利用者数

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
利用者数	水辺に近づく場所や、そこを利用する人数が増加する	印旛沼・流域を訪れる人が増加する	増加する

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

未達成、減少

佐倉ふるさと広場やチューリップ・コスモス祭りの人数は微増傾向にありますますが、花火大会や屋形船の利用者数は横ばいとなっています。

また、サイクリング利用者は減少に転じています。なお、環境・体験フェアは、天候不順による1日開催のため減少となっています。

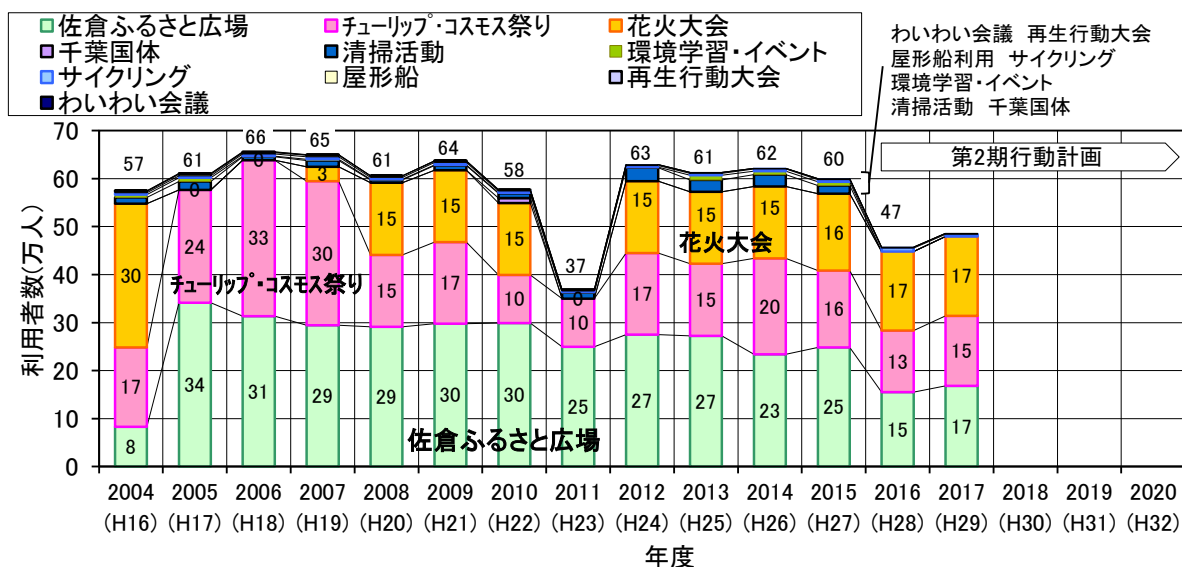


図 1.13 利用者数の比較

※佐倉市観光協会資料より作成しています。

※2004 (H16)～2015 (H27)年度は、佐倉ふるさと広場利用者数（佐倉市観光協会回答）と、市町が実施した印旛沼流域内（佐倉ふるさと広場以外含む）での環境保全活動等のイベント参加者数の合計値です。

※2016 (H28)年度以降は、佐倉ふるさと広場利用者数（佐倉市観光協会回答）のみの利用者数です。

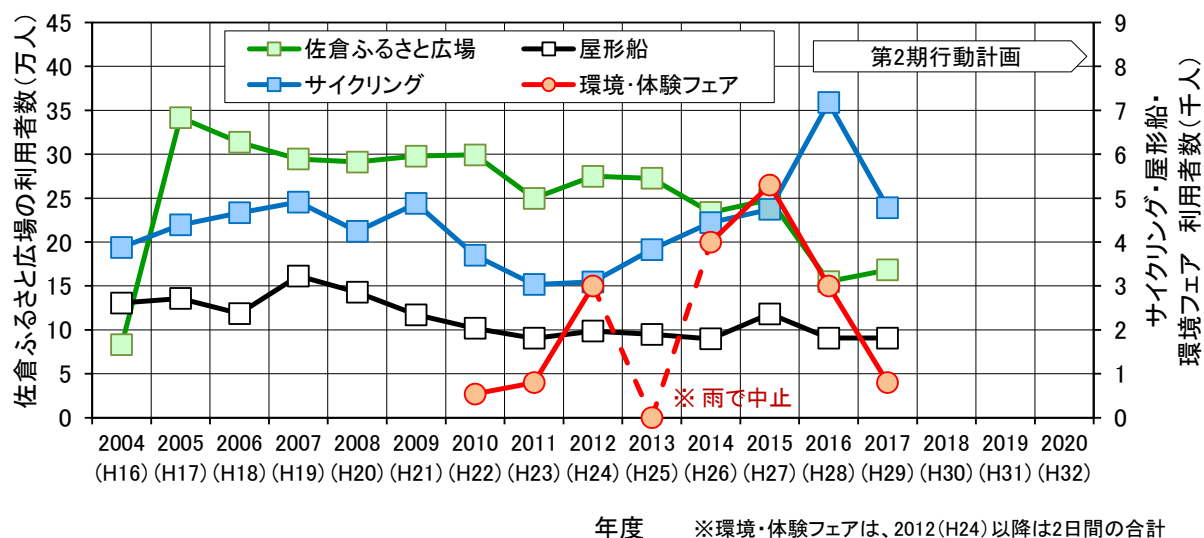


図 1.14 利用者数等の推移

※佐倉市観光協会資料より作成しています。

※2004 (H16)～2015 (H27)年度は、佐倉ふるさと広場利用者数（佐倉市観光協会回答）と、市町が実施した印旛沼流域内（佐倉ふるさと広場以外含む）での環境保全活動等のイベント参加者数の合計値です。

※2016 (H28)年度以降は、佐倉ふるさと広場利用者数（佐倉市観光協会回答）のみの利用者数です。

(7) 湧水

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値 計画策定時	2020(H32)年度目標値 第2期行動計画目標	2030(H42)年度目標値 健全化計画目標値
	流域の湧水で枯渇する場所がある 「硝酸性窒素および亜硝酸性窒素」が 10mg/L を超える所がある	注目地点での湧水が枯渇しない 低水流量が増加する	印旛沼底や水源の谷津で豊かな清水が湧く 湧水水質 硝酸性窒素および亜硝酸性窒素：10mg/L 以下

■2017(平成 29)年度における目標の達成状況

(注目地点では)湧水枯渇日数は達成 硝酸性窒素は未達成（今年度未調査）

重点観測地点とした加賀清水湧水（佐倉市）では、近年、枯渇日数はありません。

佐倉市内の湧水における硝酸性窒素の最大値は、今年度は調査未実施です。

低水流量の評価は検討中です。

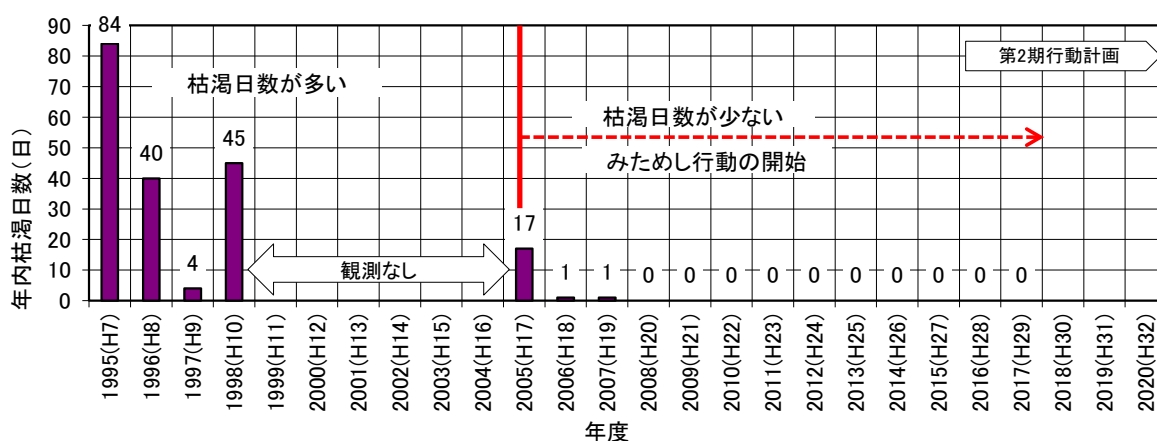
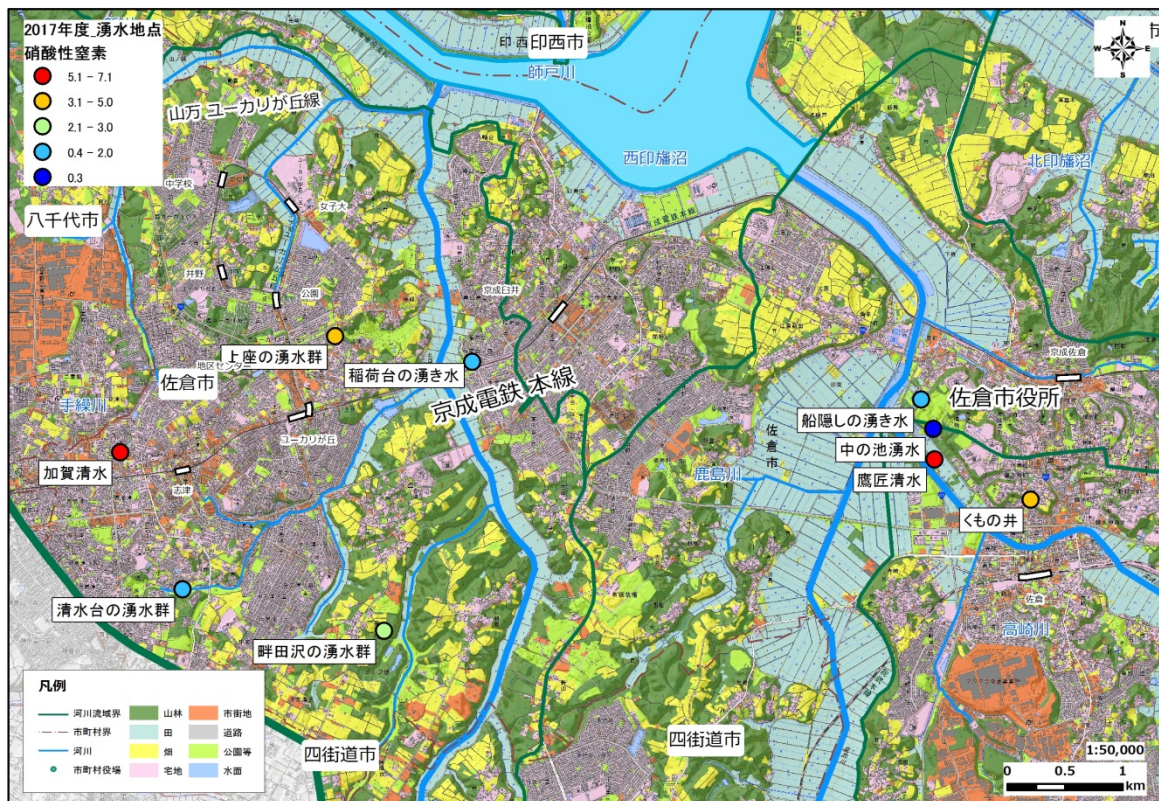


図 1.15 加賀清水（注目地点）での湧水池の枯渇日数



(8) 生き物

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
生き物	外来生物（特に特定外来生物）が侵入・拡大している 在来生物が減少している	特定外来生物の被害を 軽減する 水生植物群落を保全・ 再生する	在来生物種が保全される かつて生息・生育していた 生物種が（特に沈水植物） が復活する 外来種（特に外来生物） が駆除される

生き物の指標は、調査頻度を5年に1回としており、第2期行動計画期間内の調査は2019（平成31年）年度に実施を予定しています。（計画最終年に評価するためにその1年前に実施予定）

■2017(平成29)年度における目標の達成状況

現状では、ナガエツルノゲイトウなど特定外来生物の繁茂が確認されており、生態系WGなどで対策を実施しています。

また、近年、オオバナミズキンバイやミズヒマワリなどの植生の繁茂も確認されており、特定外来生物による被害の発生が懸念される状況となっています。

(9) 水害

■指標、目標値

指標	2008(H20)年度値	2020(H32)年度目標値	2030(H42)年度目標値
	計画策定時	第2期行動計画目標	健全化計画目標値
水害	鹿島川や高崎川の下流部などで浸水被害が発生している	治水安全度が向上する	概ね30年に一度の大雨でも安心が保たれる

■2017(平成29)年度における目標の達成状況

治水安全度向上のため、印旛沼流域の河川では河道整備や印旛沼の計画堤防高さの維持を行い、治水安全度を向上させる取組を推進しています。

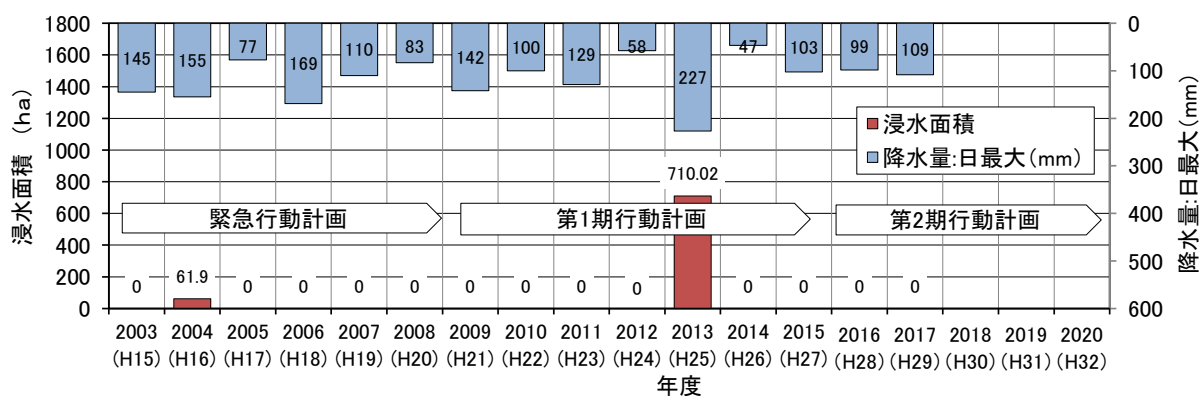


図 1.17 印旛沼流域における浸水面積

※流域 13 市町提供資料、国土交通省 水害統計調査より作成しています。

1.2 推進テーマにおける取組指標の進捗状況

1.2.1 施策達成状況のまとめ

第2期行動計画では、多様な主体による様々な取組の内容を共有し、お互いに連携しながら取組を推進するため、包括的な「テーマ」を設定し、戦略的な広報を実施する。

そのうち、第2期計画期間中に、特に推進するテーマを「9つの推進テーマ」と位置付け、第2期行動計画を着実に推進するためとして、9つの推進テーマに位置づけた取組指標の目標達成状況を毎年確認（進捗管理）していく。

以下に、9つの推進テーマにおける取組指標と目標値を示す。次ページ以降に、取組の進捗状況を示す。

テーマ	取組指標	現状 2015(H27)年度	目標値 2020(H32)年度	把握・ 算出方法
雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します	雨水浸透マスの設置基数	112,134 基 ^{※1}	143,640 基 ^{※1,※2} (31,506 基増)	実施主体への調査
	貯留・浸透施設の整備量	489 箇所 ^{※1}	1,780 箇所 ^{※1,※2} (1,291 箇所増)	実施主体への調査
	調整池改良の実施数	5 箇所 ^{※1}	6 箇所 ^{※1,※2} (1 箇所増)	実施主体への調査
	透水性舗装の整備面積	437,398 m ² ^{※1}	560,590 m ² ^{※1,※2} (123,191m ² 増)	実施主体への調査
家庭から出る水の汚れを減らします	污水处理人口普及率 ^{※3}	92.7%	94.8%	各市町への調査
環境にやさしい農業を推進します	ちばエコ農産物の認知度	モデル地域： 42.4 % ^{※4}	1.2 倍	アンケート調査
川や沼の水環境を改善します	水辺エコトーン再生	—	整備方法の確立	印旛沼水質改善技術検討会の取組実績
ふるさとの生き物をはぐくみます	特に重要な箇所における保全・再生の取組箇所数	0 箇所	5 箇所	生態系 WG の取組実績
	ナガエツルノゲイトウによる実害の解消	0 箇所	1 箇所	生態系 WG の取組実績
水害からまちや交通機関を守ります	河道整備延長	5,337m	2,658m 増	実施主体への調査
水辺を活かした地域づくりを推進します	水辺拠点等の整備箇所数	1 箇所	25 箇所	実施主体への調査
	ソフト施策実施数	4 施策	11 施策	実施主体への調査
	河川敷地の占用件数	0 件	3 件	実施主体への調査
環境学習を活発にします	水環境をテーマとした環境学習実施学校数	69 校	増加	実施主体への調査
共感を広げ、多様な主体との連携・協働を推進します	流域で開催されるイベントとの連携による広報の件数	11 件	61 件	健全化会議の実績
	WEB サイトのアクセス数	2429 アクセス/月	4000 アクセス/月	健全化会議の実績

※1：現状・目標値は、印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第7期）で定める値であり、指定湖沼範囲に含まれていない栄町は含まれていません。

※2：目標値は、WG 等によって取組の推進を図り、さらなる積み上げを目指すものです。（以降、全取組指標についても同様）

※3：污水处理人口普及率：

「下水道へ接続している人口＋農業集落排水施設へ接続している人口＋合併処理浄化槽使用人口」／「流域総人口」×100%

※4：富里市産業まつり（平成28年11月20日）におけるアンケート結果（n=550）

<指標進捗状況のまとめ>

9つの推進テーマの各取組指標の達成状況を示します。

- 具体的な数値目標のある指標のうち、雨水浸透マスの設置基数、貯留・浸透施設の整備量、透水性舗装の整備面積、汚水処理人口普及率、ちばエコ農産物の認知度は、2017(H29)年度目標を超える達成となっています。また、流域で開催されるイベントとの連携による広報件数の項目は、年度の概ね40%の目標を達成しています。
- 河道整備延長、水辺拠点の整備箇所数、水環境をテーマとした環境学習実施校数、WEBサイトのアクセス数は、2017(H29)年度目標の40%に達してはいませんが、随時進行している状況です。
- その他の項目は、随時進行中ですが、具体的な達成状況までには至っていない状況です。

重点対策群	取組指標	現状 2015(H27) 年度	第2期行動計画目標値 2016(H28)～ 2020(H32)年度	2017(H29) 年度実績	第2期行動計画 達成度合	
					0%	100%
①雨水の貯留・浸透機能を保全・再生します	1 雨水浸透マスの設置基数(基)	112,134基	143,640基 (31,506基増)	133,213基 (21,079基増)		66.9%
	2 貯留・浸透施設の整備量(箇所)	489箇所	1,780箇所 (1,291箇所増)	1,042箇所 (553箇所増)		42.8%
	3 調整池改良の実施数(箇所)	5箇所	6箇所 (1箇所増)	5箇所 (0箇所増)		0.0%
	4 透水性舗装の整備面積(m ²)	437,398m ²	560,590m ² (123,191m ² 増)	525,085m ² (87,687m ² 増)		71.2%
②家庭から出る水の汚れを減らします	1 汚水処理人口普及率(%)	92.7%	94.8%	93.6%		42.9%
③環境にやさしい農業を推進します	1 ちばエコ農産物の認知度	2016(H28) モデル地域 :42.4%	1.2倍 (8.5%増)	47.7%		62.4%
④川や沼の水環境を改善します	1 水辺エコトーンとの再生	—	整備方法の確立	未確立		0.0%
⑤ふるさとの生き物をはぐくみます	1 特に重要な箇所における保全・再生取組箇所数(箇所)	0箇所	5箇所	0箇所		0.0%
	2 ナガエツルノゲイトウによる実害の解消	0箇所	1箇所	排水ポンプ一時停止による実害の発生は無し (スクリーン目詰まりは3回発生)		0.0%
⑥水害からまちや交通機関を守ります	1 河道整備延長(m)	5,337m	7,995m (2,658m増)	226m (高崎川:26m)		8.5%
⑦水辺を活かした地域づくりを推進します	1 水辺拠点等の整備箇所数(箇所)	1箇所	25箇所 (24箇所増)	4箇所 (3箇所増)		12.5%
	2 ソフト施策の実施数(施策)	4施策	11施策 (7施策増)	4施策 (0施策増)		0.0%
	3 河川敷地の占用件数(件)	0件	3件	0件		0.0%
⑧環境学習を活発にします	1 水環境をテーマとした環境学習実施学校数(校)	69校	増加	68校		20%
⑨共感を広げ、多様な主体との連携・協働を推進します	1 流域で開催されるイベントとの連携による広報の件数(件)	11件	61件 (50件増)	30件 (19件増)		38.0%
	2 WEBサイトのアクセス数(アクセス)	2,429アクセス/月	4,000アクセス/月 (1,571アクセス増)	2,873アクセス/月 (444アクセス増)		28.9%

※1：河道整備延長は、対象となる高崎川のみを整理しています。船橋市の桑納川は計画策定時の目標に含まれていないため未計上、印旛土木事務所の北印旛沼関連事業も北印旛沼築堤工のため進捗率の整理には含めていません。

1.2.2 各対策の達成状況

(1) 雨水浸透マスの設置基数

■ 達成状況

- ・ 流域全体では、昨年度に比べ設置基数は増加しており、年あたりの設置目標を上回り、進捗率は66%となっています。

表 1.1 雨水浸透マス設置基数(前年からの増加量)

流域	第2期行動計画		現況	第2期行動計画での期間(年度)					
	2020(H32)年 までに	年当たり		2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
	〔基〕	〔基/年〕		〔基〕	〔基〕	〔基〕	〔基〕	〔基〕	〔基〕
鹿島川流域	12,439	2,488	2,337	2,461	2,130				4,591
高崎川流域			1,060	1,218	1,133				2,351
手繰川流域			1,127	1,769	1,351				3,120
神崎川流域			2,835	2,734	2,529				5,263
桑納川流域			81	59	125				184
新川流域			442	114	148				262
師戸川流域			737	1,023	972				1,996
西印旛沼直接流入流域			415	188	162				349
北印旛沼直接流入流域			1,033	1,357	1,407				2,764
流域全体	31,506	6,301	10,066	10,923	9,958	0	0	0	20,880

市町	2020(H32)年 までに	年当たり	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	合計
千葉市	113	23	41	0	0				0
船橋市	4,060	812	739	43	102				145
成田市	595	119	40	57	71				128
佐倉市	10,989	2,198	2192 ※2	2039 ※3	1851 ※3				2,039
八千代市	953	191	68	126	143 ※5				126
鎌ヶ谷市	147	29	15	8	11				19
四街道市	9,548	1,910	2084 ※2	2580 ※3	1801 ※3				2,580
八街市	1,083	217	395 ※3	498 ※3	501 ※3				553
印西市	1,284	257	3013 ※3	4178 ※3	3909 ※3				4,178
白井市	0	0	1050 ※3	669 ※3	603 ※3				669
富里市	1,602	320	88 ※4	325	444				769
酒々井町	1,133	227	286	295 ※2	415				415
栄町			56	105	106				211

※1：四捨五入の都合上、個々の値と合計の値が異なる場合があります。

※2：実際の設置基数が把握できないため、「建築確認申請件数」×「1件当たりの雨水浸透マス設置基数」から算出しています。

※3：※2の算出の際、建築確認申請件数が行政区間全体の値だったため、流域内の申請件数を流域人口比で推定しました。

※4：実績設置数が行政区間全体の値だったため、流域内の設置基数を流域人口比で推定しました。

※5：実績設置数が流域全体での調査結果であったため、流域全体人口比で設置数の推定をした。

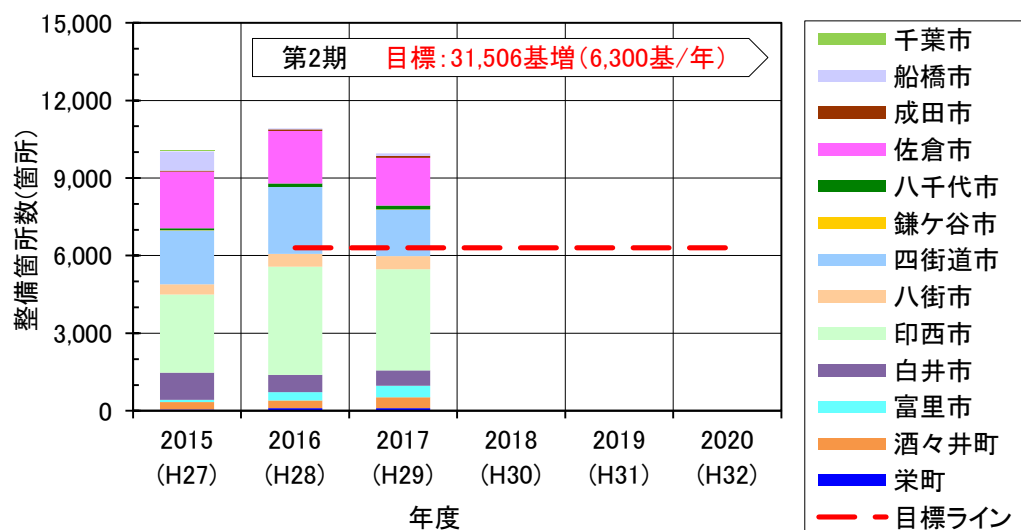


図 1.18 雨水浸透マス設置基数の推移

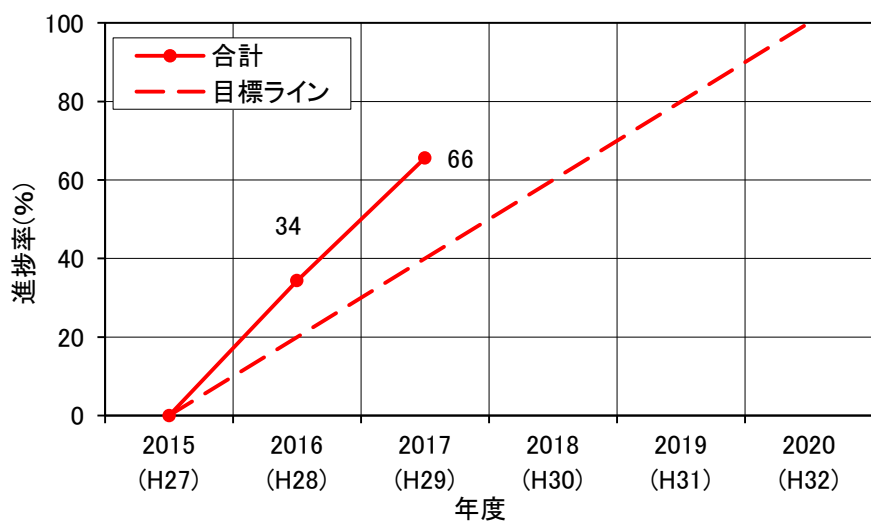


図 1.19 印旛沼流域の雨水浸透マス設置の進捗率

※データは、流域 13 市町提供資料より作成しています。

- ・実績の設置基数で回答：千葉市、成田市、船橋市、八千代市、鎌ヶ谷市、富里市、酒々井町、栄町
- ・建築確認申請件数で回答：佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市

(2) 貯留・浸透施設の整備量

■達成状況

- ・ 流域全体では、昨年度に比べ整備箇所数が増加となっており、年あたりの設置目標を上回り、進捗率は43%となっています。

表 1.2 貯留・浸透施設の整備(前年からの増加量)

流域	第2期行動計画		現況 2015 (H27)	第2期行動計画での期間(年度)					合計 ※1
	2020(H32)年 までに	年当たり		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	
	[箇所]	[箇所/年]	[箇所]	[箇所]	[箇所]	[箇所]	[箇所]	[箇所]	[箇所]
鹿島川流域	11	2	41	13	2				15
高崎川流域			16	30	52				82
手繰川流域			9	32	20				52
神崎川流域			3	67	42				109
桑納川流域			105	57	168				225
新川流域			36	16	31				46
師戸川流域			0	1	2				4
西印旛沼直接流入流域			1	2	2				4
北印旛沼直接流入流域			6	6	10				16
流域全体	1,291	258	217	224	329	0	0	0	553
市町	2020(H32)年 までに	年当たり	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	合計
千葉市	0	0	32	11	1				12
船橋市	5	1	13	28	15				43
成田市	15	3	5	0	0				0
佐倉市	45	9	8	0	1				1
八千代市	1,136	227	131	84	234				318
鎌ヶ谷市	1	0.2	2	57	10				67
四街道市	0	0	8	1	0				1
八街市	0	0	0	2	0				2
印西市	0	0	0	8	12				20
白井市	0	0	0	0	0				0
富里市	85	17	16	30	52				82
酒々井町	0	0	1	1	3				4
栄町			0	1	1				2
千葉県	4	1	1	1	0				1

※四捨五入の都合上、個々の値と合計の値が異なる場合があります。

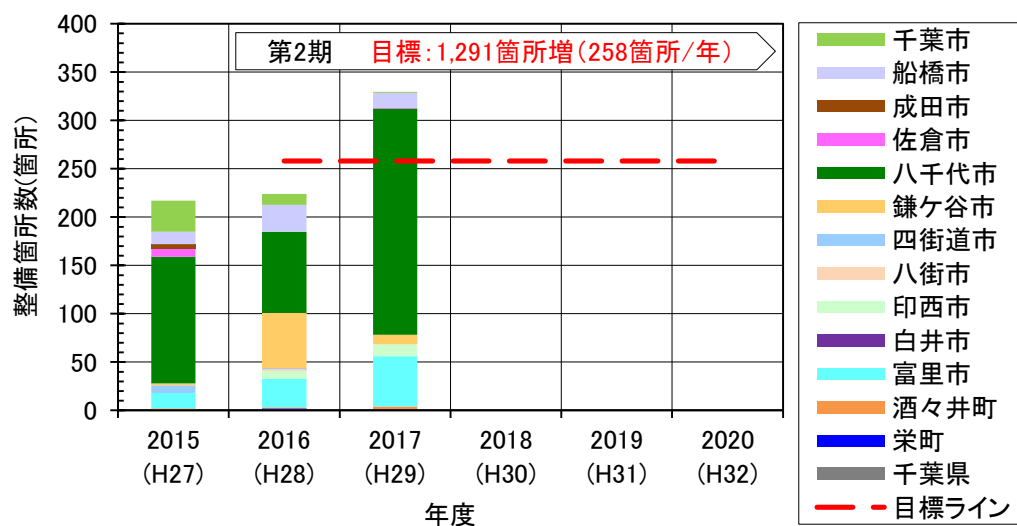


図 1.20 貯留・浸透施設の整備量の推移

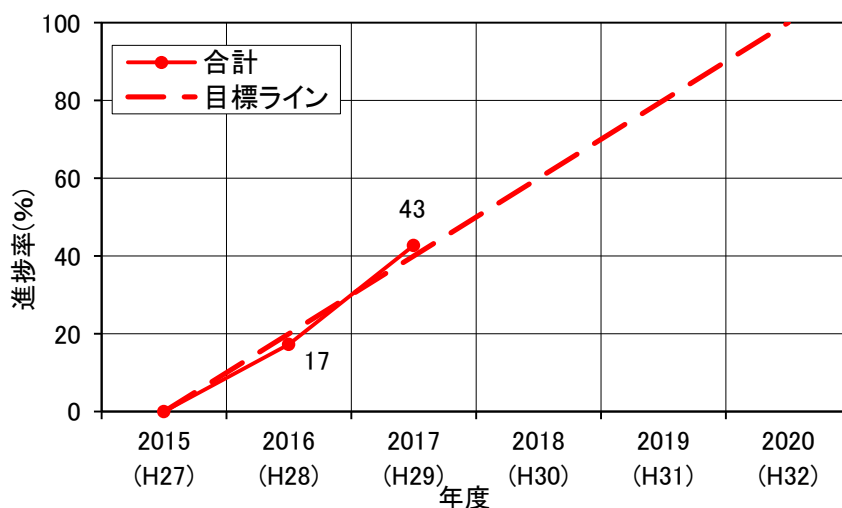


図 1.21 印旛沼流域の貯留・浸透施設の整備量の進捗率

※流域 13 市町及び県土木事務所資料より作成しています。

(3) 調整池改良の実施数

■達成状況

- ・ 2017(H29)年度は、調整池の改良は行われていません。

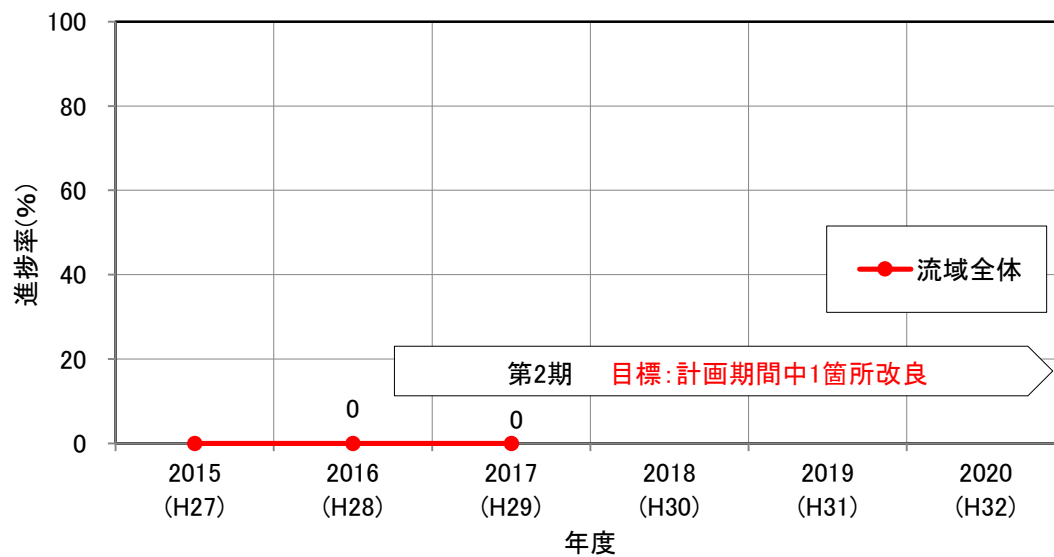


図 1.22 印旛沼流域の調整池改良実施の進捗率

※流域 13 市町及び県土木事務所資料より作成しています。

(4) 透水性舗装の整備面積

■達成状況

- ・ 流域全体では、昨年度より整備面積が大幅に増加し、年あたりの整備面積を倍以上上回り、進捗率は71%となっています。
- ・ 進捗率の高い市では、道路の新設や改良工事時に、歩道での透水性舗装の整備が実施されました。今年度は、八千代市の西八千代北部特定土地区画整備事業で、歩道をすべて透水性舗装で整備されたことにより大幅増となりました。

表 1.3 透水性舗装の整備面積(前年からの増加量)

流域	第2期行動計画 目標値		現況	第2期行動計画での期間(年度)					
	2020(H32)年 までに	年当たり		2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
	[㎡]	[㎡/年]		[㎡]	[㎡]	[㎡]	[㎡]	[㎡]	[㎡]
鹿島川流域	22,588	4,518	1,588	1,287	11,566				12,853
高崎川流域			750	66	1,198				1,264
手繰川流域			586	468	3,082				3,550
神崎川流域			2,265	3,837	2,164				6,001
桑納川流域			848	2,367	54,824				57,191
新川流域			3,145	0	57				57
師戸川流域			13	0	152				152
西印旛沼直接流入流域			2,041	0	601				601
北印旛沼直接流入流域			2,951	2,835	3,129				5,964
流域全体	123,191	24,638	14,187	10,860	76,773	0	0	0	87,633

市町	2020(H32)年 までに	年当たり	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	合計
千葉市	8,561	1,712	1,347	978	5,811				6,789
船橋市	10,000	2,000	4,837	3,877	2,086				5,963
成田市	5,000	1,000	1,119	1,971	1,013				2,984
佐倉市	5,058	1,012	1,055	534	7,639				8,173
八千代市	0	0	843	0	52,880				52,880
鎌ヶ谷市	5,835	1,167	0	1,958	0				1,958
四街道市	5,931	1,186	0	0	0				0
八街市	0	0	0	309	0				309
印西市	12,825	2,565	72	129	2,515				2,644
白井市	1,900	380	530	158	285				443
富里市	39,980	7,996	0	0	172				172
酒々井町	6,750	1,350	1,475	864	1,439				2,303
栄町			0	0	242				242
千葉県	21,351	4,270	2,909	83	2,690				2,773

※: 四捨五入の都合上、個々の値と合計の値が異なる場合があります。

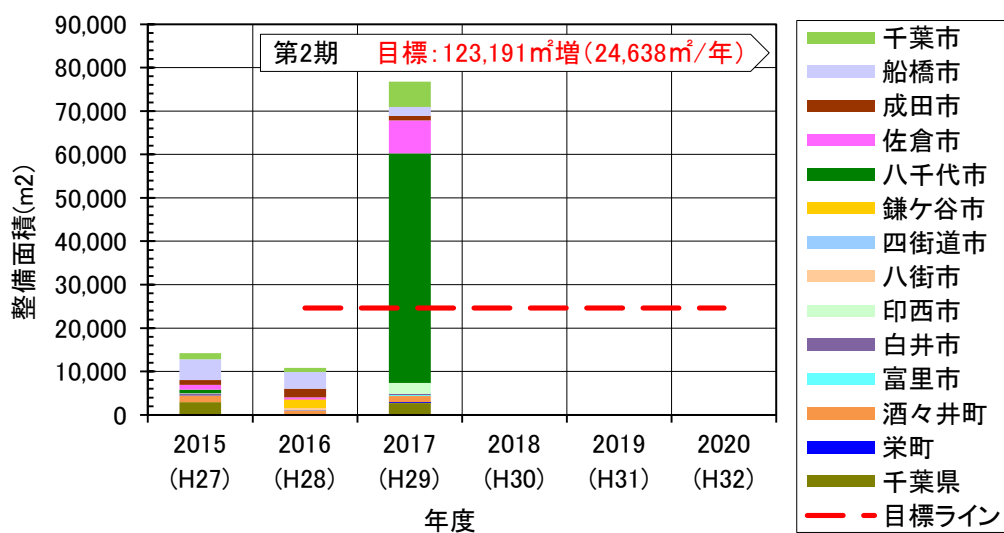


図 1.23 透水性舗装の整備面積

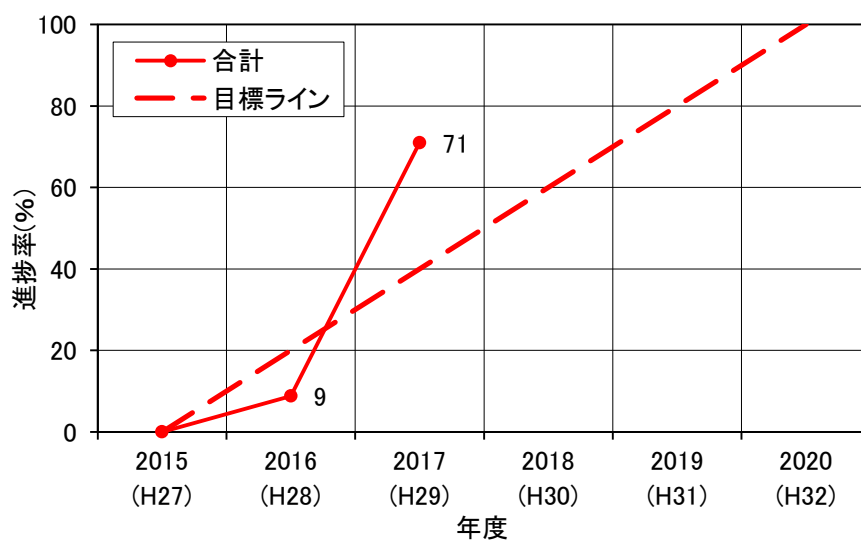


図 1.24 印旛沼流域の透水性舗装整備の進捗率

※流域 13 市町及び県土木事務所資料より作成しています。

(5) 汚水処理人口普及率

■達成状況

- ・ 汚水処理人口普及率^{注3}は、流域全体で 93.6%となっており、年々増加傾向にあるものの目標は下まわっています。

表 1.4 汚水処理人口普及率

流域	流域総人口						汚水処理人口						汚水処理人口普及率					
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
鹿島川	148,597	149,039	148,063				132,050	133,109	133,988				88.9	89.3	90.5			
高崎川	91,747	91,308	90,658				76,813	76,711	77,015				83.7	84.0	85.0			
手繰川	112,009	111,982	111,918				106,239	106,250	106,441				94.8	94.9	95.1			
神崎川	135,861	138,125	138,644				129,645	132,089	133,080				95.4	95.6	96.0			
桑納川	127,356	128,857	130,977				122,470	124,294	126,719				96.2	96.5	96.7			
新川	67,053	67,097	67,066				64,178	64,385	64,474				95.7	96.0	96.1			
師戸川	14,960	15,389	15,860				14,612	15,046	15,529				97.7	97.8	97.9			
西印旛沼直接	22,661	22,504	22,300				21,360	21,208	21,068				94.3	94.2	94.5			
北印旛沼直接	63,301	63,845	64,201				59,340	60,009	60,670				93.7	94.0	94.5			
合計	783,545	788,146	789,687				726,707	733,101	738,984				92.7	93.0	93.6			

市町	汚水処理人口普及率					
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)
千葉市	93.0	93.1	95.8			
船橋市	96.5	96.8	97.0			
成田市	92.5	93.0	93.2			
佐倉市	94.9	94.9	95.1			
八千代市	94.5	94.7	95.0			
鎌ヶ谷市	93.8	94.2	94.7			
四街道市	92.3	93.1	93.6			
八街市	72.8	72.9	74.5			
印西市	96.7	96.8	97.6			
白井市	95.1	95.3	95.5			
富里市	77.8	79.4	80.2			
酒々井町	95.9	95.9	95.9			
栄町	-	93.6	94.2			

注 1 千葉県水質保全課が毎年実施している湖沼水質保全計画での指定地域内での汚水処理人口普及率の集計値を使用しています。

注 2 第 2 期行動計画では、流域の汚水処理人口を把握、目標とするため、第 1 期行動計画の下水道普及率及び高度処理型合併処理浄化槽利用人数を改編し、汚水処理人口普及率としています。

注 3 汚水処理人口普及率：「下水道へ接続している人口＋農業集落排水施設へ接続している人口＋合併処理浄化槽使用人口」を汚水処理人口とし、流域総人口に対する割合を汚水処理人口普及率と定義しています。そのため、農林水産省、国土交通省、環境省で公表している汚水処理人口普及率の値とは異なります。

注 4 流域別の汚水処理人口普及率には栄町の値は含まれていません。また、2015 年 (H27) の栄町の汚水処理人口普及率はデータ集計上、整理されていません。

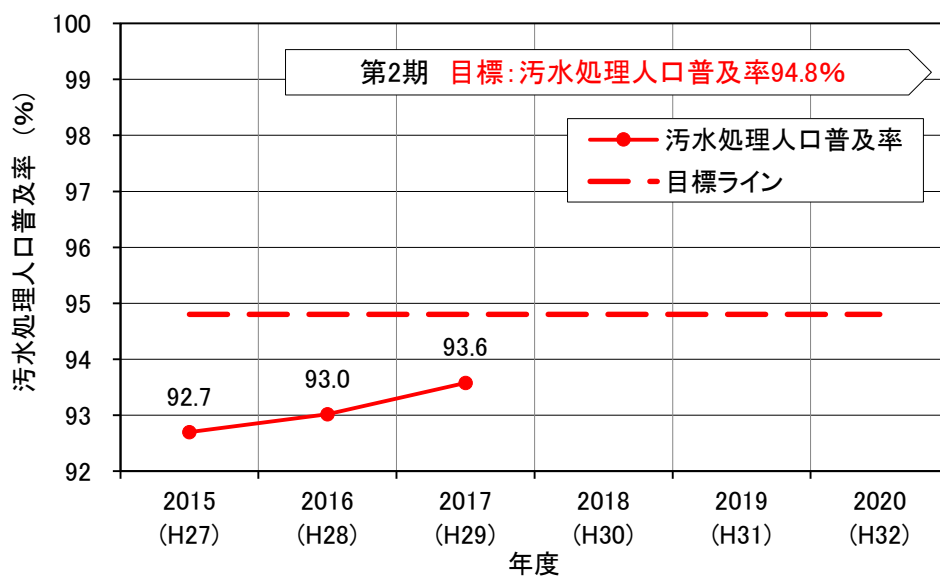


図 1.25 印旛沼流域の汚水処理人口普及率

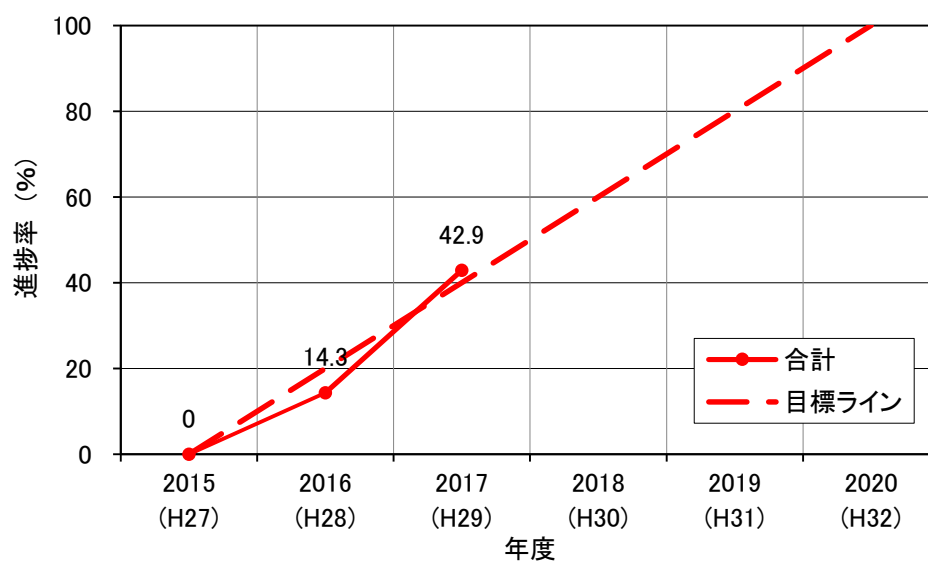


図 1.26 印旛沼流域の汚水処理人口普及率の進捗率

※千葉県水質保全課資料より作成しています。

(6) ちばエコ農産物の認知度

■達成状況

- ・ ちばエコ農産物の認知度の調査は、2016(H28)年度は 42.4%でした。
- ・ 2017 (H29) 年 11 月 19 日の富里市産業まつりで、2017(H29)年度のちばエコ農産物の認知度を調査した結果、47.7%と 2016(H28)年度と比較して 1.12 倍に上昇しました。
- ・ 生産・流通・販売に関わる主体との連携のもとに、ちばエコ農産物など、環境にやさしい農産物の販売促進や PR、生産者のインセンティブを高める仕組み等について検討しています。

<2017 (H29) 実施概要>

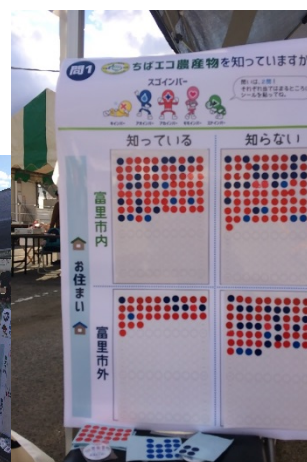
項目	内容
目的	ちばエコ農産物およびその印旛沼とのつながりに関する認知度向上 第 2 期行動計画の取組指標「ちばエコ農産物の認知度」の 2 年目における中間評価
取組	富里市産業まつりに出展し、ポスターによる PR とアンケート調査を実施
場所	富里市役所敷地内
期間	平成 29 年 11 月 19 日 (日)



PR 用ポスター



ブースの様子



アンケートの様子

<成果>

- ・ 約 250 名に PR およびアンケート実施
- ・ 富里市民による「ちばエコ農産物」の認知度は 47.7%と、平成 28 年度と比べて 1.12 倍に上昇（平成 32 年度の目標値は平成 28 年度比 1.2 倍）
- ・ 富里市民による「ちばエコ農産物が水質改善につながること」の認知度は 35.1%とやや低下
- ・ どちらも富里市民の方が認知度が高い

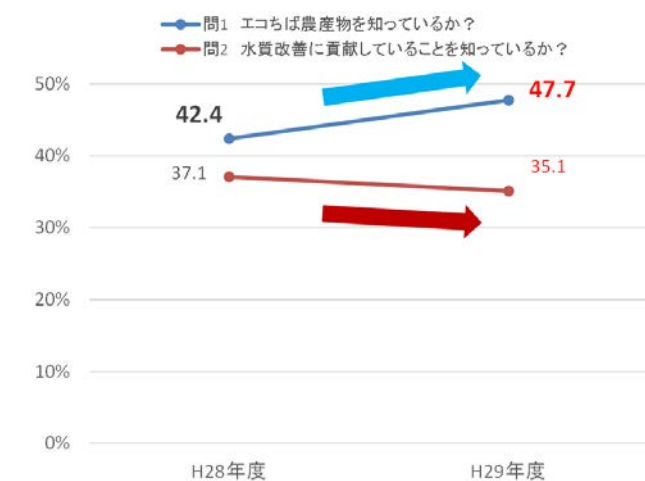


図 1.27 ちばエコ農産物の認知度

(7) 水辺エコトーンの再生

■達成状況

- ・ 環境学習、モニタリング等を通じて市民・市民団体と連携しつつ、系統維持（固有の種を絶やさない取組）に取り組んでいます。
- ・ 千葉県立中央博物館では、水草を次世代につなぐため「系統維持」を継続的に行っています。系統維持とは、植生帯整備等、水草を再生させる取組の中で復活に成功した取組のことを言い、かつて印旛沼で繁茂していた水草を守り、種子を生産させることで、印旛沼固有の水草を守る大切な取組の一つです。
- ・ 印旛沼の水質形成機構を踏まえて、水辺エコトーンの再生に向け、印旛沼水質改善技術検討会・水質改善工法検討WG・水草再生WG 合同会議で整備方法の確立に向けて取り組んでいるところです。
- ・ 水辺エコトーンの再生の一環として、平成29年度に水質改善を目的とした底泥浚渫を実施しました。
- ・ 底泥は水と一緒に浚渫するため、配土池と呼ばれる仮置き場で水と底泥に分離して、水は印旛沼に戻します。残った底泥については、水質改善のための植生帯の整備に活用するといった水質改善の相乗効果を期待した取組を検討中です。

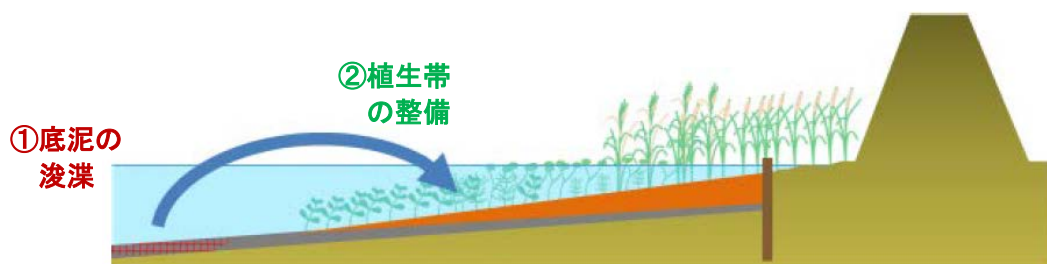


図 1.28 浚渫を組み合わせた水辺エコトーンの再生のイメージ



図 1.29 底泥浚渫による水質改善の取組の様子

(8) 特に重要な箇所における保全・再生取組箇所数

■達成状況

- ・ 多自然川づくりや河川合流地点の段差の解消、植生帯整備、外来種の管理などについて、多様な主体と連携し、エコロジカル・ネットワークの推進を目指しています。

(9) ナガエツルノゲイトウによる実害の解消

■達成状況

- ・ 第 1 期行動計画において実施した、ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦の継続により、ナガエツルノゲイトウの駆除に努めています。
- ・ 大和田機場にてナガエツルノゲイトウによるスクリーンの目詰まりによる排水ポンプの一時停止が発生しています。
- ・ 2017(H29)年度は、排水ポンプの一時停止による実害は発生していませんが、スクリーンに目詰まりしたナガエツルノゲイトウの除去を 3 回行っています（その時の除去量は 35t です）。

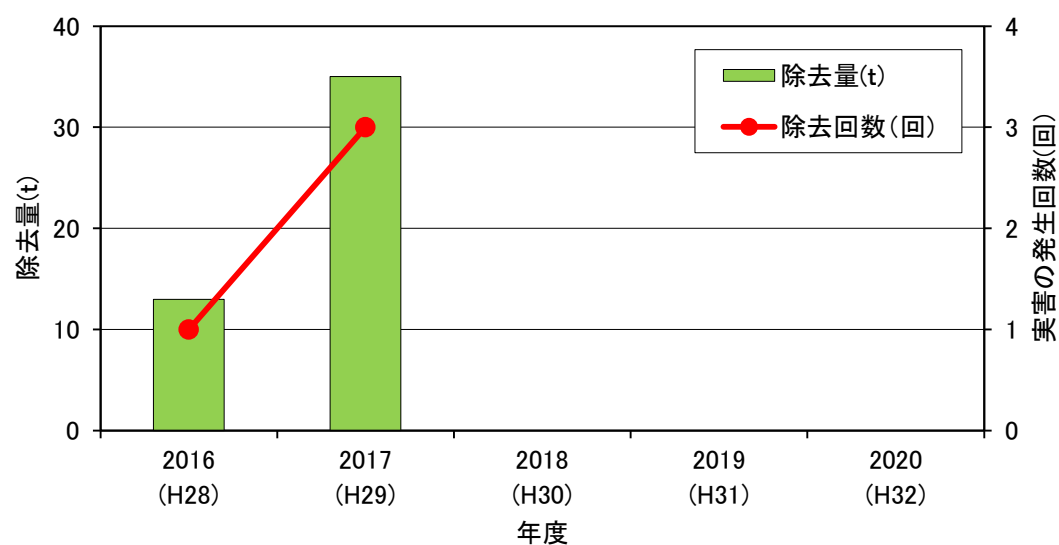


図 1.30 大和田機場におけるナガエツルノゲイトウの除去状況

※水資源機構資料より作成しています。

(10) 河道整備延長

■達成状況

- ・ 桑納川で 102m^{注1)}、高崎川 26m^{注2)}の河道整備が行われました。
- ・ 流域全体では 9%の進捗となっています。

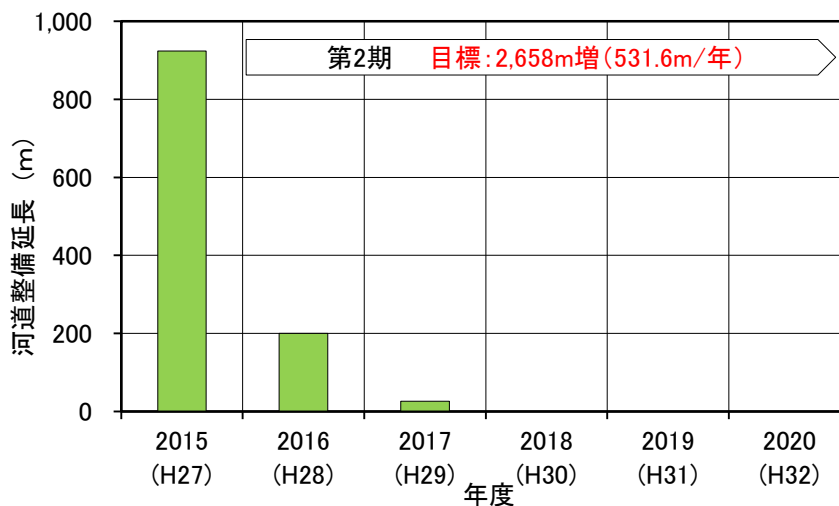


図 1.31 各年度の河道整備延長

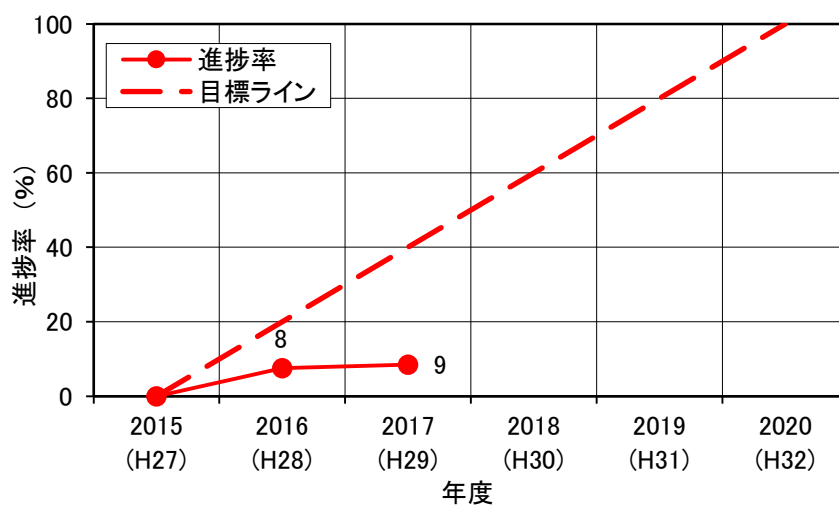


図 1.32 印旛沼流域の河道整備の進捗率

※流域 13 市町及び県土木事務所からの回答を元に作成しました。

注 1) 桑納川の 2017 (H29) 年度の整備は、船橋市の整備分で、河道整備延長目標値の葛南土木事務所の 80m とは異なります。このため、計画策定時の目標に含めていませんでしたので、進捗率の整理には含まれていません。

注 2) 高崎川の 26m の整備は、橋梁架換に伴う整備分です。なお、北印旛沼築堤工も実施されていますが、計画策定時の目標に含めていませんでしたので、進捗率の整理には含まれていません。

(11) 水辺拠点等の整備箇所数

■達成状況

- ・ 印旛沼流域かわまちづくり計画において、一里塚（ミニ拠点）整備（20 箇所）、水辺拠点整備（1 箇所及び構想案 4 箇所）の整備計画が立案されています。
- ・ 第1期計画中に、1 箇所（西印旛沼水辺拠点）が整備され、2017(H29)年度は、一里塚整備として昨年度からの「飯野」の他、「八代」「舟戸」整備を実施しているところです。
- ・ 飯野では、階段護岸の整備と船着き場の整備を行うことで、親水性の向上や佐倉ふるさと広場からの舟運と結節できるようにし、観光施設（サンセットヒルズ）等と連携して水辺の活用を推進していきます。



図 1.33 水辺拠点等の整備状況

一里塚「飯野」の整備状況



(12) ソフト施策の実施数

■達成状況

- ・ 印旛沼流域かわまちづくり計画に位置づけられる 11 のソフト施策のうち、2017(H29)年度は 4 施策が実施されています。

表 1.5 ソフト施策の実績

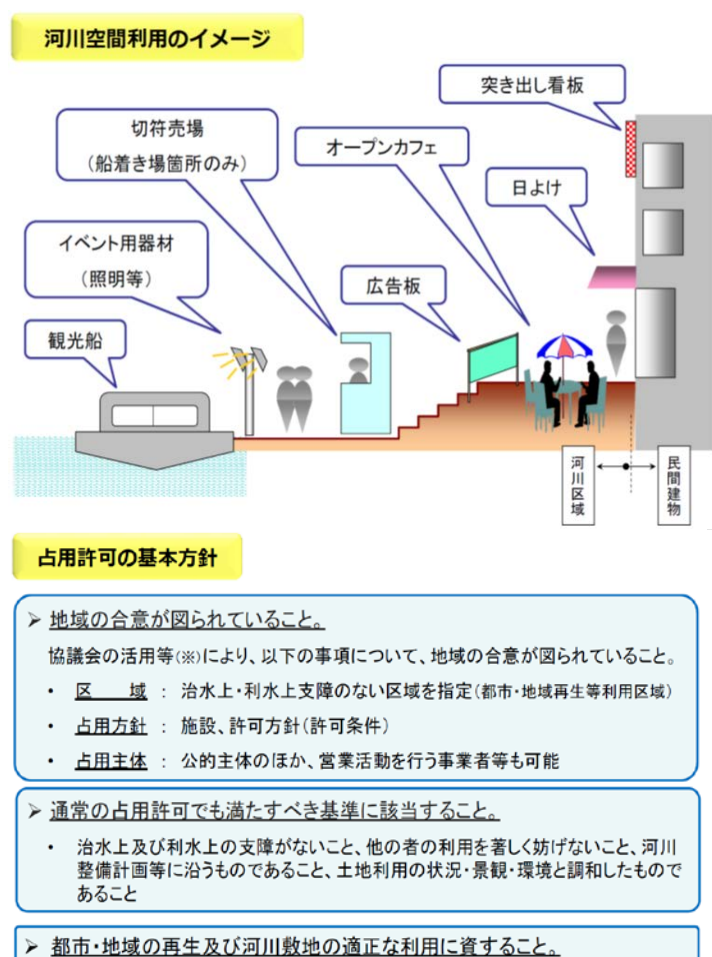
かわまちづくり計画に位置付けられたソフト施策 (11 施策)		実施状況	
		2017 (H29)	2017(H29)年度の実施内容
既存利活用プログラム・イベントとの連携及び活用	1 マラソン大会における印旛沼の広報	○	マラソン大会において印旛沼を広報 ・佐倉朝日健康マラソン(佐倉市)
	2 民間企業と連携したアクティビティ・イベントの開催	—	
新規利活用プログラム・イベントの開発	3 印旛沼ダムカードの配布	○	2 箇所で配布中 ・西沼カード:ふるさと広場管理棟「佐蘭花」 ・北沼カード:印旛沼漁業協同組合
	4 健康プログラムの開発・普及	—	
	5 最新アクティビティの導入・新規イベントの開催	—	
情報発信の強化・充実	6 アクティビティ・コースマップのプラットフォームの設置	○	WEB サイト「いんばぬま情報広場」にて印旛沼関連のマップを公開中
	7 地域資産の情報発信のパッケージ化	—	
	8 広報に関する企業等との連携強化	—	
印旛沼流域の魅力・ブランド力の強化	9 景観のブラッシュアップ	○	印旛沼連携プログラムを中心に住民や市民団体等関係者と連携して清掃等を実施中 ・印旛沼浄化推進運動を実施(佐倉市)
	10 水辺のカフェ等の導入	—	
	11 印旛沼八景の選定及び活用	—	
実施施策の合計:		4	

(13) 河川敷地の占用件数

■達成状況

- ・ 印旛沼流域かわまちづくり計画では、水辺拠点等のハード整備や地域と連携したソフト施策の実施を進めています。
- ・ その中で、更なる水辺空間の利用を図るため、河川敷地占用許可準則の一部改正に伴い実施が可能となった商業利用を目的とした河川敷地の占用※を推進しています。
- ・ 現在の占用件数はゼロ件で、今後積極的な利用に向けて関係者との連携を進めていきます。

※河川管理者、地方公共団体等で構成する協議会の活用などにより、地域の合意を図った上で、河川管理者が区域、占用施設、占用主体をあらかじめ指定することで、占用許可を受けた営業活動を行う事業者等は、河川敷地にイベント施設やオープンカフェ、キャンプ場等を設置することが可能になる



※協議会によること以外にも、地元市町村があらかじめ河川管理者と協議の上、都市再生特別措置法(平成14年法律第22号)第46条第1項に規定する都市再生整備計画に河川敷地の利用について定めていること、地元市町村の同意があることなど、地域の合意が確認できる幅広い手法によることができる。

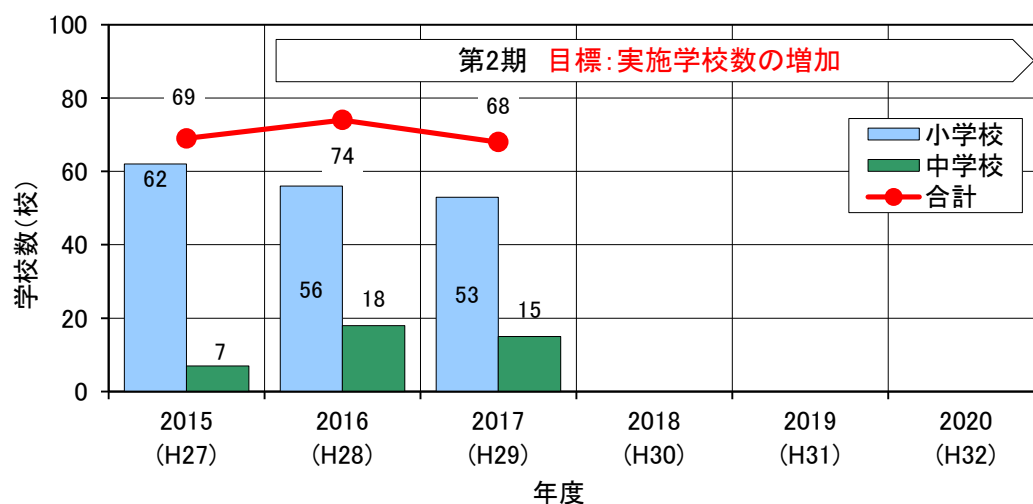
14

出典：国土交通省 河川のオープン化について

(14) 水環境をテーマとした環境学習実施学校数

■達成状況

- ・ 2017(H29)年度は、小学校で 53 校、中学校で 15 校、計 68 校となっています。
- ・ 2016(H28)年に比べ、2017(H29)年度は小学校、中学校ともに減少しています。



1.34 水環境をテーマとした環境学習実施学校数

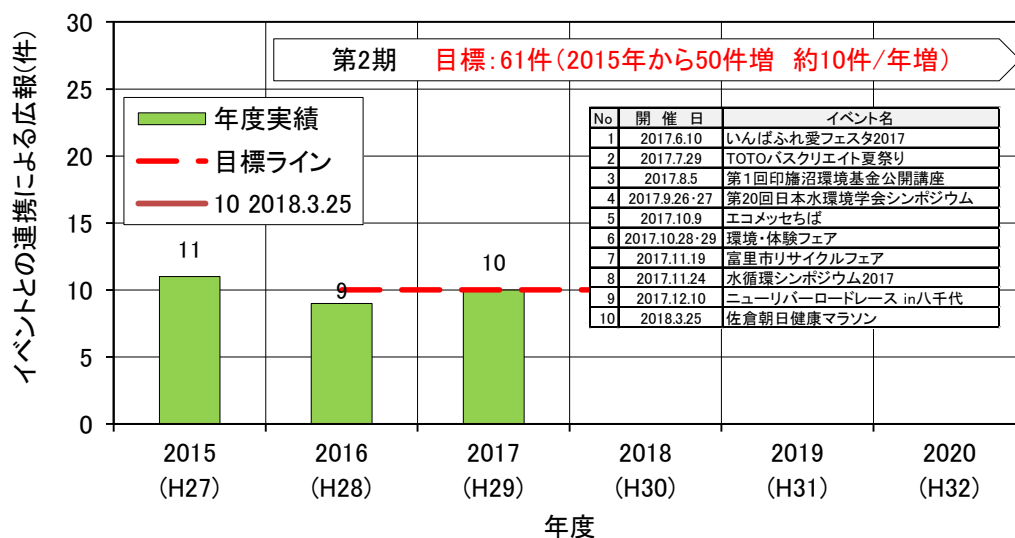
※流域 13 市町（各市町の教育委員会）及び千葉県水質保全課資料より作成しています。

※環境学習の内容として、水辺の自然観察、水質調査、河川等の清掃、歴史・変遷、教室内での観察・実験、その他（屋形船での観察会等）を設定して調査しています。

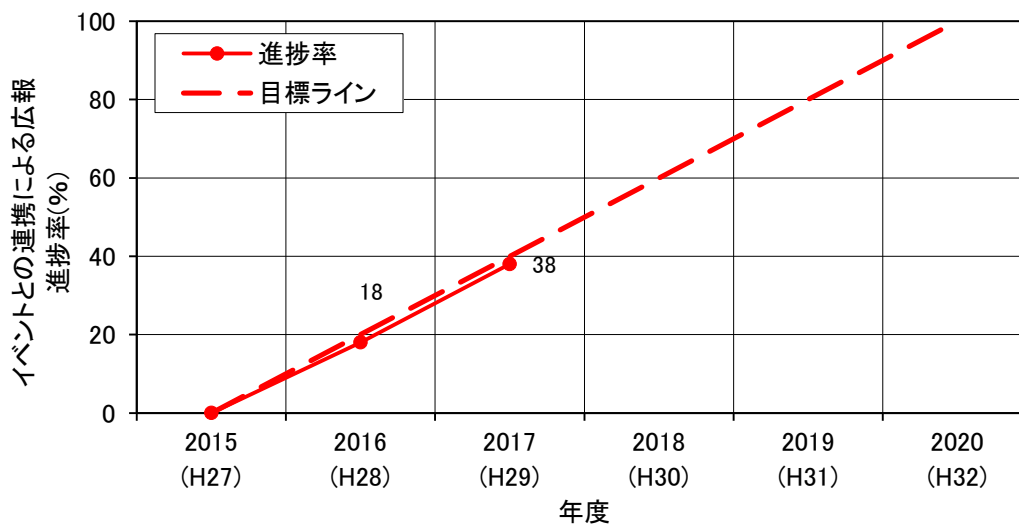
(15) 流域で開催されるイベントとの連携による広報の件数

■達成状況

- ・ 流域で開催されるイベントとの連携による広報件数は、2017(H29)年度は 10 件と過年度の 9 件より増加しています。
- ・ 2015(H27)年度からの合計で 30 件となっていますが、目標の 61 件(50 件増：年 10 件増)に対し 38%の進捗率となっています。



1.35 印旛沼流域で開催されるイベントとの連携による広報の件数



1.36 印旛沼流域で開催されるイベントとの連携による広報件数の進捗率

※千葉県河川環境課資料より作成しています。

(16) WEB サイトいんばぬま情報広場のアクセス件数

■達成状況

- ・ 2010(H22)年度は直前にリニューアルを行ったため、2009(H21)年度と比較してアクセス数が約 2.0 倍に増加しました。その後、減少傾向となっていました。2013(H25)年度以降は再びアクセス数が増加しています。
- ・ 2017(H29)年度は 2,873 アクセス/月となっており、2016(H28)年度より増加していますが、目標の 4,000 アクセス/月には至っていません。
- ・ 毎年 9～10 月は、印旛沼流域環境・体験フェアやその他の流域イベントが多く開催され、積極的に広報したことから、アクセス数が多い傾向があります。

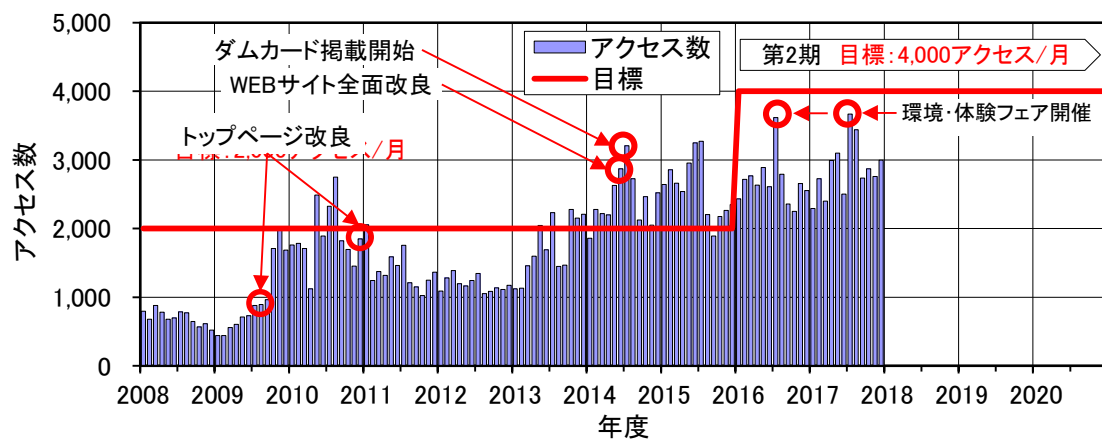
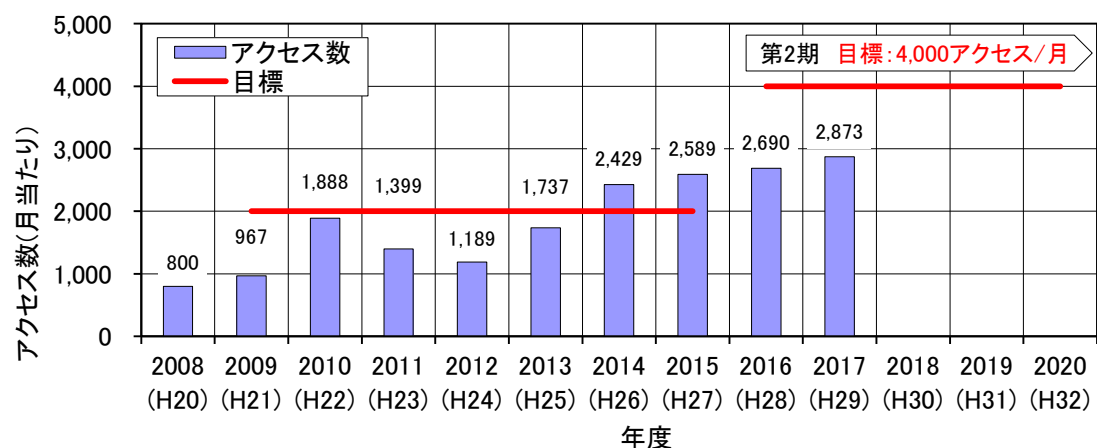


図 1.37 Web サイトいんばぬま情報広場アクセス数の推移

※千葉県河川環境課資料より作成しています。

1.3 第2期行動計画の記載の一部訂正

推進テーマ「家庭から出る水の汚れを減らします」の取組指標を「汚水処理人口普及率」（算出方法は図 1.38）としているが、実際には図 1.39 のとおり生活排水を処理している人口の割合を使用しているので、正しい記載に訂正する。

取組指標と目標値

以下の指標で取組の進捗を管理していきます。

取組指標	現状※1	目標値※1 2020(H32)年度	把握・算出方法
汚水処理人口普及率※2	92.7%	94.8%	各市町への調査

※1：現状・目標値は、印旛沼に係る湖沼水質保全計画（第7期）に掲げる下水道・農業集落排水施設・合併浄化槽の整備の現状及び目標から算出した値（指定地域内に陸域のない栄町は含まれていない）。

※2：汚水処理人口普及率：

「（下水道＋農業集落排水施設＋合併浄化槽による汚水処理人口）／流域総人口」×100%」

訂正

生活排水処理率

訂正

生活排水処理率：

「（下水道接続人口＋農業集落排水施設接続人口＋合併処理浄化槽使用人口）／流域総人口」×100%」

（参考）

①汚水処理人口普及率＝（下水道供用開始区域の人口＋農業集落排水処理施設等供用開始区域の人口＋その他区域での合併処理浄化槽使用人口）／流域総人口×100%

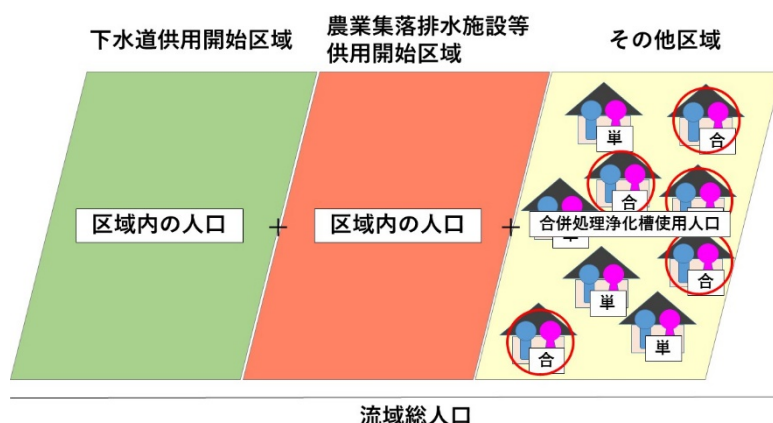


図 1.38 汚水処理人口普及率の算出方法の概略図

②生活排水処理率＝（下水道接続人口＋農業集落排水施設接続人口＋合併処理浄化槽使用人口）／流域総人口」×100%

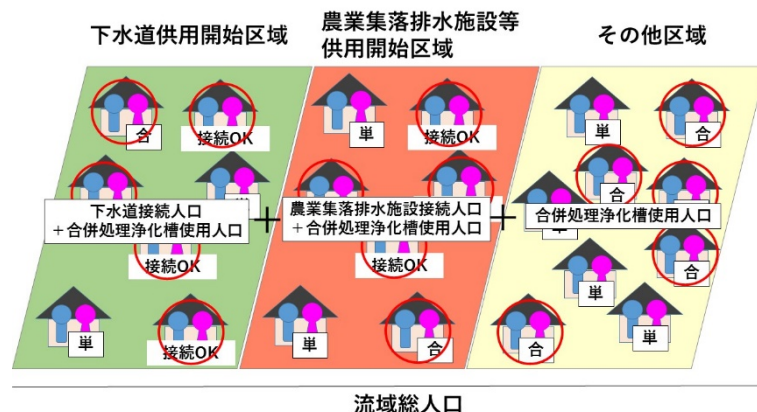


図 1.39 実際の算出方法の概略図